

# ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 9



北海道市営競馬協議会会報

y.u





岩見沢競馬、第2障害の熱戦

## 猛勇な戦士

青毛よ

おまえはなに思う

この戦場に猛進する

おまえはなに思う

一頻りのやすらぎ

青葉を食む山麓すさみ

まばゆいこの光景

思い出して

いるのだろうか

砂塵にむせ

疲れはてても

戦い続けける

おまえはなに思う

栄光のゴール!

勝利の安堵!

## 目次

会報の発刊に寄せて……………	3
午年に翔けるばんえい……………	4
海外競馬を見聞して……………	9
マスコミに取り上げられたばんえい……………	14
馬事一束……………	21
ばんえい便り……………	22
各地の祭典ばんえい……………	28
'78馬の祭典……………	32
馬と人間のドラマ……………	32
私のばんえい人生……………	34
基礎研修をふりかえって……………	35
競走用具と機械の研究……………	36
昭和五十三年度……………	36
馬産奨励に関する生産者賞種雄馬……………	38
管理者賞受賞者名簿……………	38
昭和五十四年度番組編成要領……………	45
昭和五十四年度報償費……………	47
昭和五十三年度種雄馬ランキング……………	48
昭和五十三年度賞金受賞ランキング……………	49
昭和五十三年度市営競馬成績……………	50
昭和五十三年度道営競馬成績……………	50
昭和五十三年度引退馬(表彰馬)……………	51
昭和五十三年度リーディングトレーナー……………	56
昭和五十三年度リーディングジョッキー……………	56
昭和五十四年度市営競馬日程表……………	57
昭和五十四年度道営競馬日程表……………	57

# 会報発刊に寄せて



## 北海道市営競馬協議会

会長 坂 東 徹

ともに、収益は各自自治体の財源として大きく貢献しているところであります。

しかし今日、景気回復のきびしさが見えてきているとは言え先行きは楽観を許されない情勢下であり、市営競馬のあり方について慎重な論議が行われていることは御承知のとおりであります。また、施行面においては不況等の要因が鋭敏に反映し、特に地方競馬の売得額、入場人員の伸び悩み傾向が見られるなど現状をとりまく環境はますます厳しくなっております。

当協議会としても市営競馬の長い歴史や伝統をふまえ、一層の伸展を図る見地に立って各層の信頼に応える公正確保、ファン層に親しみをもたせる運営面の工夫等、適切な執行により一層の意を払いその伸展を期したいと考えるものです。

そのためにも、一部事務組合の設立は不可欠なものであり、出来るだけ早い機会に設立させるため関係機関の御指導をいただきながら積極的に推し進めたいと思っております。

『走り馬に鞭』ということわざがありますが、本会にとつては正に今日的な金言であります。『信頼と連帯による魅力ある競馬』づくりをめざし、力を合わせてよりよい運営に鋭意努力する所存でありますのでさらに一層の御高配をお願い申し上げます。

北国の厳しい寒さも和らぎ希望に満ちた躍動する春を迎え、本会の関係者は事業執行を目前に意を新たにしていくところであります。

さて、昨年の競馬界は全国的に不調な年であったにもかかわらず、本道における市営競馬が

順調な伸びを確保できましたことは、本会の堅実な運営はもとより、関係機関及び団体の温かい御指導の賜ものと心から感謝申し上げます。お蔭げをもちまして、今日、市営競馬は健全で楽しい競馬として広く大衆化してきていると



# 午年に翔ける

## ばんえい

北海道市営競馬協議会

事務局長

### 鈴木一彦

#### 午年を顧みて

昭和五十三年度は、市営競馬にとって意義深い年でありました。

「午年」であり「競馬の年」であり「ばんえいの年」であったこと。十二年前の昭和四十一年の午年は、道営競馬のばんえい競走が中止となり、ばんえい競走については市営で全面開催となり、以来苦節十二年、現在の近代ばんえいの基礎固めに鋭意努力して迎えた「午年」に、全国でもトップクラスの上昇率の好成績を収め得られたことであります。

また、「競馬法施行三十周年」及び「市営競馬施行二十五周年」並びに「北海道市営競馬協議会設立十周年」の三つの記念行事が重なった「トリプル記念」の年であり、それぞれ記念式典、記念行事、記念競走、記念誌、記念品等を通じ、ばんえい競走伸展のPRを推進できたチャンスでもありました。

この意義ある年を迎えるに当り、ばんえい競走は世界に類のない競走として、健全娯楽としてのファンの信頼向上、公正確保と近代化の推進、施行体制の強化等を図り、四月二十九日天皇誕生日を皮切りに北見競馬場で開幕、十七回、一〇二回、一〇三レースを開催し、十一月十三日北見競馬場で無事終了することができました。

#### 売得金額

売得金額は、全道四主催市総合計で、

二・五億三千万円と大巾な伸びを示し、一日平均上昇率で前年対比一・二・四％増の好成績をあげることができました。

各競馬場毎の一日平均売得金の前年対比は、岩見沢競馬場が驚異的な伸びを示して全国第一位の一三・一・〇％と好調であり、続いて北見競馬場が一〇・〇・〇％で第三位を確保し、全国上昇率ベストスリーに二場がランクされたことは特筆すべきことであります。旭川競馬場も一〇・四・二％、帯広競馬場も一〇・二・四％とそれぞれ上昇し、四場揃って前年を上回る好成績を納め得た。

一開催レコードについては、旭川競馬場で一八億三八七二万円、北見競馬場で一六億五七三六万円とそれぞれ更新され、また、一日レコードについては、岩見沢競馬場の四億四二三〇万円、北見競馬場の四億九〇九三万円の記録を樹立し、一レースレコードは、人口一〇万最北端の北見競馬で実施しました農林水産大臣賞典競走が、一億三四四万円の驚異的なばんえい全道レコードを樹立し、いよいよばんえい競走も、一レース一億円の大台突破の記念すべき年でありました。

平地競走との比較は、一日平均売得金額において、旭川競馬場では一五・二・二％、帯広競馬場では一三・六・一％と前年に引続き大きく水をあげましたが、岩見沢競馬場は七・七・二％で前年より一〇・五％上昇したものの平地競走を下回っていますので、今後如何にして札幌の平

昭和四十九年に始まったオイルショックの大旋風の余波は依然として続き、景気浮上の兆が見られぬままに迎えた昭和五十三年度は、ドル安円高二〇〇〇円を割った日本経済の不況と、レジャーの多様化に伴う競馬放れのダブルパンチを受け、不況に強いと言われた競馬も低迷期を抜け切れず、売上の伸び悩みと入場人員漸減の憂慮すべき事態のまま、四年目がすぎてしまいました。

しかし、この全国的な傾向の中で、北と南の競馬場は堅調な伸び率を示し、全国一日平均売得金上昇率の一〇〇・三％をそれぞれ上回っておりますが、その中でも「ばんえい競走」の上昇率は、四競

馬場平均で一・二・四％と二桁の大台に乗る飛躍的な発展を示し、入場人員についても、全国平均上昇率の九三・一％に比較し一〇〇・三％と若干の伸びを確保することができたことは、売上の上昇より喜ばしいことでありました。

特に前年度は、ばんえい競走も不況の波に勝てず、念願の二百億円を突破したものの、過去一〇年間で初の一桁下位の三・八％増の伸びに留まり、本年度は如何にして不況の波を乗り越えるかの正念場の年であっただけに、午年にふさわしい「ばんえい躍進の年」として意義深いものがあり、その喜びを感銘している次第であります。

地ファンをばんえい競走に引付けるかが大きな課題として残されました。

## 入場人員

年間入場者は、四八五、三〇二名で横這い状況ではありますが若干の伸びを示し(前年比〇・三%増)、全国一日平均前年比九三・一%に比較すれば、前年を確保できただけでも良好な成績と言えるのではなからうか。

しかし、問題がないわけではない。

入場者一人平均勝馬投票券購買額について検討しますと、全国平均は三四、二八七円に対し、ばんえい競走は四六、四二六円で約一二、一三九円の大巾な差がある点であります。特に第五回北見競馬第三日におきましては、七四、七二八円の異常なレコードを作っていました。

東北、北海道地区は、他種競技と競合が少ないことと冬期休催で短期間の競馬を楽しむ関係上、昔から平均的に購買額は高い傾向(道営、岩手組合、上の山共に四万円を突破)にありますが、ばんえい競走が全国一位の高額では、ギャンブル性が強すぎるのではないかとの誇りを受けかねないので、決して売得金の上昇のみを手放しで喜んではいられない現況であります。今後のばんえいの発展の為に、広く道民に愛され健全娯楽としてギャンブル性の昂揚を抑え、気軽に楽しめるばんえいとして入場人員の増加を図り、それに伴う売上増を目ざす運営改善がキーポイントでなからうかと反省させ

られた年でありました。

## 公正確保対策

### 一、走路監視体制の確立

昭和五十二年に走路内異物混入の不詳事件が発生し、関係者に多大のご迷惑をおかけしたことについては深く反省自戒しているところでありますが、本年度はその再発防止対策として走路監視体制の強化を図り、走路の点検に關し必要な事項を定めた「走路点検要領」を設置し、四競馬場の統一した走路の管理点検を実施すると共に、機械化として競馬開催十日前からVTRカメラ二台をスタート及びゴール側のタワーに設置して二十四時間走路監視体制を確立し、併せてガードマン二名による夜間の監視を実施するなど機械と人による二重のチェックによる走路監視体制で不詳事件再発の完全防止に万全を期した次第であります。

### 二、研究調査委員会の発足

走路、競走用具、その他競技施設等に關し、公正確保を重点とした改善を要する事項及び事故の事前防止を図る研究調査機関として、四主催市及び本会職員により編成されたプロジェクトチームの「研究調査委員会」が発足し、それぞれ専門的に研究調査改善に取組み、走路整備用ハロー及び撒水機の試作研究、競走用そりの改善、発馬機の改良等、公正確保に直接関係のあるその研究成果は目覚ましいものがありました。

### 三、第二障害専用VTRの設置

ばんえいの競走監視用VTRカメラはスタート側から三台、ゴール側及びスタンド側から各一台の合計五台で撮影し、公正審判の参考としていましたが、本年度から死角となっていた第二障害の内側からの競走監視を強化するため、第二障害専用VTRカメラ一台を新設し、騎手の取法、馬の動き等を完全把握することができたことは画期的な新企画であり、合計六台のカメラによる前後左右死角のないスタートからゴールまでの競走監視体制は、一段と公正審判業務の充実が図られ、その威力を十二分に発揮することができました。また、VTRで記録されたフィルムは、二年間保存する体制を本年度から実施いたしました。

## 運営体制の確立

執務体制の強化として、装あん所業務の充実、薬物の取締、競走馬診療業務の指導監督等のため、獣医師職員一名を増員配置しました。

競馬場内外の防犯対策として、退職警察官を嘱託職員として採用し、厩舎情報及びノミ、スリ行為に対する情報収集を強化し、また厩舎の出入監視及び不正行為防止のため、厩舎担当専任職員の配置を図りました。

執務員間の連絡を密にするため、開催日に毎朝開いている執務委員会の内容充実を図り、また勝馬投票券の高額購入者の通報及び高額払戻者のチェックとして不審者報告書の作成通報等、執務員間

の連絡通報体制の確立を図った。

## 厩舎管理体制

厩舎出入者の監視チェック及び厩舎内パトロールを強化するため、ガードマン二名を増員してその適正配置を図り、また調教師、騎手、厩務員に対しては、公正確保に対する責任意識及びモラルの向上を指導するため、講習会を年間十六回の増加計画で実施すると共に、厩舎関係者の自衛意識の昂揚を図るため、厩舎自衛委員会と定期的会合(開催毎一回)を持ち、不正防止のための活動強化と協同監視体制の確立等を指導してきました。

## 出走馬

本年度の出走申込馬(一〇七六頭)及び出走実頭数(五八一頭)共に若干(一〇二%)低下しましたが、厩舎馬数との関係上ここ数年間は大巾な変動はなく、稍定着した感があります。

古馬には傑出したスター的存在の馬がなく稍低調であったが、その中で五才馬の健斗が目立ち、受賞額ベストテンに、スインショウ、紅一点のキヨヒメ、ダイケツの三頭が入り注目を集め、明年度の活躍が大いに期待されます。

年間最高受賞馬レイショウの一、三三万円を筆頭に、八〇〇万円以上が一〇頭、また通算受賞額四、一一七万円のハクリユウを始めテツワカ、ハヤツネが三千万円以上を突破した。

馬産の基礎となる優秀牝馬の確保を図

るため、牝馬の優遇策を実施して五年目になるが、年々その頭数も増加し、三才馬においては前年比四六%増の四一頭に急増し、一頭平均受賞額において牝馬を上回る好成績をあげ、その施策の成果が実りつつあることを数字が示しているようであります。

ベルジン系種牡馬の台頭が目覚ましく話題をふりまいた。特にジャンデユレイ号の初仔は、三才馬受賞額ベストフアイブ中スター的存在でN・O・1のリニュータカラ(九七九万円)とN・O・5のマサカツを出し、一躍注目をあびましたが、本会が昭和五十年度に二〇〇万円の補助金を出している馬だけに特に喜ばしく、今後益々活躍することを祈るものであります。

## 騎手成績

懸案の調騎分離を本年度から実施し、調教師五十一名、騎手三十七名となり、ベテランの調騎兼業騎手の大部分が調教師となった関係上少々不安な開幕となったが、若手の活躍が目覚ましく取り越し苦労にすぎなかった。

三十七名の騎手の中で、ベテランの健斗と新人の大活躍が目立ち、特にベテラン金山、山田の両騎手がデットヒートの末、年間一〇〇勝を達成、年間一〇〇勝以上の騎手二名が誕生したことは、ばんえい史上初のケースでありました。

なお金山騎手は連続五年一〇〇勝以上の記録を樹立し、通算六九一勝でトップ

を走っています。

新人騎手は四名デビューしましたが、皆川、鈴木、山田の両騎手は共に二十一勝で減量の☆印がとれ、浜田騎手は十七勝、前原騎手は八月の岩見沢競馬で競走中自馬に蹴られ右眼失明の不運にあったが、前半で八勝するなどそれぞれ好成績をあげ、明年度の活躍を大いに期待するところであります。

## 競馬番組

本年度の番組編成方針としては、若令馬の重賞、特別競走の増設、最低一着賞金の底上、平場競走における各競馬場毎の賞金格差の是正、条件クラスの特例競走の増設等を計画し実施しました。

賞金は年々増加され、農林水産大臣賞典及び旭王冠賞の二大重賞競走を最高峰とし、一着賞金五〇〇万円二R、四〇〇万円三R、三〇〇万円以上三Rを含み、一〇〇万円以上のレースを七十九R実施し、前年比十三R増の豪華番組を編成いたしました。

年令制限については、昭和五十一年から漸減方式で若令化を図ってきたが、本年度で年令制限を十才とし、競走馬の新陳代謝に伴う競走の新鮮化を実現いたしました。

騎手の疲労防止による競走の公正化を図るため、昭和四十八年度から一日の騎乗回数を六回に制限してきましたが、本年度からさらに連続騎乗を三回までに制限した。また騎手重量を二キロ増の七十

五キロとして、重量オーバーを一切認めない方針で実施した。

## 馬産対策

本道における馬の生産頭数は、一般農用馬の需要減少に伴う生産減と肉資源としての供給増で、年々減少の一途をたどっていることは周知の事実であり、昭和五十三年二月一日現在の農用馬は、前年比三、四二五頭減の一三、四六五頭に減少、一萬頭を割る日が目前に迫ってきた。

しかし、ばんえい競走馬の生産は、最近のばんえい競走の繁栄に刺激され、量より質の時代に流れは変わり、生産頭数は減少しているものの競走馬としての質の向上は年々目覚ましいものがあります。

本会は、昭和四十八年度からばんえい競走馬の生産奨励事業として約一、三〇〇万円の予算を計上し生産対策に努めているところでありますが、それが最近の競走馬生産意欲の向上に結びつき、その成果が見られたものと推察できるところであります。

従来の生産者は血統より馬格に重点をおいてきたが、昭和五十一年日本馬事協会における種馬登録事業の発足に伴い、血統を重視した生産に移行する傾向が見られ、優秀な繁殖牝馬の確保と、新しい種牡馬の導入に力を入れたしてきたことは、ばんえいの将来に明るい兆がみられてまいりました。

また、日本馬事協会において、昭和五十一年から現役のばんえい競走馬を毎年

一頭購買し、道内の農業団体に貸与してきましたが、本年度は十一月十四日北見競馬場において「ムサン号」価格五〇〇万円「カネマル号」価格四八〇万円の二頭が購買となり(本会補助金二〇〇万円)それぞれ網走管内と胆振管内に配置され、馬産改良に活躍することになりました。

## 二才馬登録

全国初の「二才馬の馬登録」を十二月に地全協で実施していただいた。

例年ばんえい競走馬の登録は、一二月の零下二十数度の厳寒時、吹雪の中でも検査し、登録担当の皆様が大変ご苦労をかけ、また競馬場等に集合する場合の積雪による交通問題及び騎手、厩務員の事故発生等もあり、数年前から競馬終了後十一月十二月中に実施できるように地全協に要望してきたところでありましたが、やっとご理解を得、念願かなって十二月初旬に五五八頭の登録が完了できた次第であります。

## 競走用具と機械化

前年度に若干発生した胴引の事故再発防止の為、胴引のかけ金部分の角度を改善し、かじ棒についても後端部の一部を改善するなど、競走中の事故完全排除に努め、一件の事故も発生しなかったことは特筆すべきことであります。

スターテングゲートについては、前扉の軽量化、ラッチレバーの改善、整馬ラ



ンブの増設により、突進件数が大巾に減少し好成績をあげ得た。

走路整備については、セパレートコースの宿命である各コースの絶対均一化及び公正確保とファンサービスに通ずる防塵対策として、年当初からワイドロータリー・ハロー及び撒水機の試作に取組み、再三にわたる研究改善をくり返してその完成を見ることができ、明年度からその威力を発揮できることを期待しているところであります。

馬場水分については、最近特にファンの関心が深くなってきましたので、従来の一捨三入〇・五%区分による揭示方法を廃止し、電光掲示板を新設し〇・一%区分(測定時刻も同時発表)の正確な発表に改善し、ファンサービスに努め好評を拍しました。

## 騎手提要の完成

昭和五十二年度から、地全協においてばんえい研究班のプロジェクトチームが編成され、ばんえい競走の基本的な御法等に関し積極的に取組まれ、競走のVTR集録、騎手教養所における実地試験、執務員及び騎手からの意見聴取等約一年間にわたり理論的に研究され、十月にばんえい競走の御法の基本を確立した立派な騎手提要が、世界で初めて完成され、ばんえい近代化の大きな推進力として活用できるものであり、紙上を借りて研究班の皆様にお礼申し上げる次第であります。

## 調騎会勇退制度の発足

競馬近代化の一環として、調教師の定年制の確立が全国的に検討され、まだ結論を見えないところではありますが、ばんえい調騎会では数年前から自主的的制度として定年勇退制度を検討、本年度は準備期間として明年度発足を目的に基金の積立を実施し、最近「勇退退職給付規程」が制定され、定年六十五才で明年度から発足することになったことは、近代化に数歩前進した画期的な制度として、その運営育成指導に努力をおしまないものである。

## 記念行事とPR

「競馬法施行三十周年記念」  
北見市を除き三主催市はそれぞれ三十三周年記念のタイトルで、農林水産大臣賞典競走を一レース実施した。

### 「78馬の祭典」

競馬法施行三十周年を記念し、十月三日から八日まで札幌市三越デパートにおいて「馬と人間のドラマ」をテーマに、地全協、道内五競馬主催者が主催して、大人から子供まで楽しめる馬の祭典が開かれ人気を集めました。

平地競走ファンにばんえい競走をPRする又とないチャンスとして大いに張切り、一トン級のばんえい競走馬のはく製を鉄所りと共に展示して先ず入場者の目を驚かせ、巨大な蹄鉄のチャリティーオークション、そりの後端で判定する決勝ク

イズ、レースの模様をVTRで一日中放映する等、日頃接する機会のない平地競走ファンに、ばんえいの力とスピードの迫力を十二分にPRすることができ、盛況のうちに閉幕されました。

### 「市営競馬施行二十五周年記念」

市営競馬も四分の一世紀を経過し、二十五周年を迎えた記念行事として、各主催市はそれぞれ趣向をこらし、記念式典、記念レース、記念誌の発行、アトラクション、一日委員長、永年勤続者表彰、記念植樹、記念品(ライター、タバコ、ハンカチ)の贈呈等盛大な記念行事とPRが行なわれました。

### 「市営競馬協議会設立十周年記念」

本会初代事務局長でありました内田靖夫氏の執筆による、ばんえい三十年の歴史を綴った「ばんえいまんがどくほん」を発刊し、関係者に配布してばんえいのPRに努めました。

## ファンサービス

ファンサービスについては、すでに数件述べたところでありますが、それ以外については次のことを実施しました。

軽種の種牡馬で競走経歴のある馬は、競走馬名を使用することが原則となっていますが、ばんえい競走馬の種牡馬は、まだ血統登録事業が発足して歴史が浅い関係上、競走馬名と異なる血統書の馬名を使用しています。

最近の調査で、現役時代に優秀な成績を残しファンに馴染の深かった馬が、二

十余頭も種牡馬として活躍しています。が、「ダービー馬からダービー馬を」の血統を重視する競馬として、ファンと馬と血統の繋がりを重んじ、本年度から出走表の父馬の血統欄には、競走馬名を使用してファンサービスに努めました。

また、競馬は推理するスポーツとしてファンに愛され今日をなしてきましたが、ばんえい競走は平地競走に比較すると、その推理の資料を提供する予想紙の内容が若干低調の傾向が見うけられましたので、五年前に中央と地方競馬に全国的組織を持つ大手予想紙「ホースニュース馬」を認可し、そのばんえい競走に対する実績は高く評価されたところでありましたが、本年は更に一社馬社同様大手の「競馬ブック」を認可し、活版三社、孔版五社で豊富な資料を提供させ、ファンサービスの向上とばんえいのイメージアップを図りました。

## 昭和五十四年度を 迎えるにあたり

本年度は午年としてばんえい飛躍の年で無事終了し、また三つの記念行事も重なり、市営競馬としては一つの句切りをつける年でありました。

新年度に当りましては、ばんえい三十年の歴史を顧み、過去に起きた前車の轍を二度と踏まぬよう反省自戒し、新たな構想の下にばんえい進展に一層の努力を傾ける所存であります。

## 施行体制

一部事務組合設立の機運が高まってから早くも三年半の設立準備期間を経過しましたが、それぞれ異なる事情をかかえ、遠隔の地に散在する四主催市を一本化することは、全国でも初のケースとして注目を浴びていますが、その設立は難産しているところであり、新年度こそ設立に向けて邁進の年として高らかな産声を聞けることを念願する次第であります。本会職員については、昭和五十一年から増員計画に基づき年々強化しているところでありますが、新年度においてもさらに三名の新規職員を採用し、執務体制の強化を図る予定であります。

## 公正確保

近年VTRの活用により監視体制の強化を図り、その効果をあげているところでありませんが、新年度は、厩舎内出入者の監視とチェックの強化を図るため、厩舎門ガードマン詰所に二十四時間監視のVTRを新設し、また競走監視の強化として第二障害専用VTRを走路外側に更に一台増設して、前後左右計七台のVTRにより死角のない厳重なパトロールを実施し、一段と公正確保に威力を発揮できると確信しています。

調教師、騎手、厩務員に対しては、講習会等を開催して委員長指示事項等の念達に努め、公正確保の徹底を図ってきたところでありますが、厩舎内に居住して

いるそれ等の家族に対する指示の徹底に稍欠ける面が見うけられるので、新年度からは、家族（奥様方約八〇名）を対象とした平易な講習会を数回開催し、公正確保に対する啓蒙を図り、厩舎内居住者一丸となった自衛意識の昂揚に努める所存であります。

## 近代化

昭和五十二年に岩見沢競馬場に電算機が導入され、ファンサービス、窓口の混雑緩和、近代化に伴うイメージアップ等のメリットは測り知れないものがありました。他の三場においてもトーター導入の気運が高まり、早い場では五十四年度中に遅い場でも五十五年からシングルユニット方式のトーターを設置する方向で検討中ですが、四場完成の時は四場相互場外馬券発売の夢もふくらみ、ばんえいの将来に明るい希望もたれています。ばんえい近代化の一環として職能分離の問題があり、本年度はその第一歩として調騎分離を実施しましたが、まだ厩舎関係者と馬主の分離問題が残されていますので、これ等については分離目標年度を明確にして強力な指導に努めたい所存であります。

## 競走用具と機械化

競走用具の改善には毎年鋭意研究を続けているところでありますが、本年八月前原騎手が競走中後肢で顔面を蹴られる事故が発生し、ばんえい三十年の歴史で

初の事故とは言え、その再発防止を図るためにその鼻木部分に「けり止」を設置しました。また重量物の積載方法についても検討の余地があり、その統一化に向けての研究でその結論をみましたので、箱型重量物を改善し、積載重量物配置基準表に基づく指定配置方法を指示し、公正化を図りました。

その他わらび型にハミカン嵌入の事故防止対策として、胸郭部分に「覆革」の装着を義務づけ、また養馬機内の厩務員退出確認ランプの新設により発走事故の防止に努める等を計画しています。

## 競馬番組

競馬の売上に直接影響する重要なファクターは、公正な競馬の施行と競馬番組の内容であります。新年度において番組のマンネリ化を排除する対策として、ローカル色豊かな特別競走の名称の採用、ファンの人気投票による重賞競走の新設、四オクランク競走の固定化と定量化、若令馬（三〜五才）の特別競走と牝馬競走の増設、ビックレースの農林水産大臣賞典競走一着賞金の増額（六〇〇万円）、最低一着賞金の底上等を目下検討中であります。

## 生産対策

馬産の基礎は繁殖牝馬にあることは常識ですが、最近の本道における優秀な繁殖牝馬は老令化して受胎率の低下の傾向がみられ、若令化を図ることが急

務と考えられるので競走経歴牝馬の生産地還元を推進するため、牝馬の年令制限と優遇策を実施する方向で検討し、新年度中にその結論を出す予定であります。

## 結びに

昭和五十四年度の開催日程は、中央、道営、市営で全道六カ所の競馬が競合する関係上日程調整は困難を極めました。が、例年より二日早い四月二十七日旭川競馬場が開幕、十七回、一〇二日を開催し、十一月十二日帯広競馬場で終了する予定ですが、不況の荒波を乗り越えた「百年」の勢に乗じ、新年度も躍進の年を目指して総力を結集し、より一層の進歩的な健全化と公正化を追求して、道民に愛されるばんえい競走としてファンの期待に応える所存でございます。関係各位の絶大なご指導ご支援をお願いする次第であります。



# 海外競馬を見聞して

岩見沢市役所

## 谷村寿昭

出 発

九月二十八日から十月十三日迄の十六日間海外競馬運営研修の目的の爲、公営競馬主催者協議会の森専務を団長として、兵庫県林公営競馬管理者、中津競馬組合馬場局長等十一名、通訳一名計十二名の中に私もその一員として、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランドの四ヶ国に出発しました。

何分にも外国旅行は始めてのことでもあり、その上英語に弱いし、平地競走のことは、なにもわからないという、この二つの不安な心を持ちながらの研修を余儀なくされ、不安と期待に胸の動悸を感じながら、一行と共に、午前七時、外はまだ人影がまばらの中、東京シテイアーターミナルに全員集合した、関係者の方々の丁寧なお言葉をちょうだいしながら、見送りを受け、元氣よく新東京国際空港（成田）に向けて出発し、十時五十五分に日本を飛び立ちました。

シンガポール

現地時間十六時二十分無事に第一番目

の目的地シンガポールに着きました。

シンガポールは典型的な複合民族国家である。同時に多くの国語が使われているところである。現地案内人の迎えを受けて、ホテルに入りました。

ホテルでは、早速案内書を見た処、現地語、英語、外に日本語版がありました。国語はマレー語だが、官庁用語や商業用語としては英語が使われる。

日本のホテルのように、私の目にとまったものには、あまり毛色の変った人が少ないので、外国という感じがしないでもないが、日本語では通じないので、やはり、ここが外国に來たのだという感じがしました。

翌日、丘陵地帯の熱帯の濃い緑にかこまれたマラヤ競馬場へ案内されました、入口では、立派で近代的な五階建の駐車場を横目に見ながら、事務所に案内され、ここは、マラヤ競馬協会の事務所でもあります。

マラヤ競馬協会は、一八九六年に設立されました。以来七十五年間、馬と騎手

の安全と、公正なレースの基に発展してきました。

協会は、シンガポールとマレー半島全域を含めた隣国のマレーシアの二ヶ国で、シンガポール・ターフクラブ、ペナン・ターフクラブ、イポ・ターフクラブ、クアラルンプール・ターフクラブの各代表者による委員会が組織され、マレー半島の競馬の運営に当たっています。

開催執務員は、マラヤ競馬協会職員とターフクラブ職員で構成されています。

競馬は、一年中開催されています。開催日は、土曜日、日曜日だけで、シンガポールでは七回、イポは五回、ペナンは五回、クアラルンプールでは六回の計十三回である。このほかに、アマチュア参加競馬が開催されて、馬に対する知識を高め、競馬への理解を図っています。

ブリクツマ競馬場

週末になると、シンガポールの人たちは水泳、水上スキー、帆走、スキン・ダイビング、海釣りなど楽しめます。

週末行事の大きなものとして、ブリクツマ・ロードの競馬場で定期レースがおこなわれる、多数の観衆が集まるなかで、白熱的レースが展開する。

このように、シーズンオフなく、花ざかりのように、いつもすばらしい天候に恵まれている。

その中でブリクツマ競馬場は、あいにく休催中な為、自分の目で、競馬運営を見ることはできませんでしたが、施設だけ、見学することが出来ました。

スタンドは、現在増築中で、メインスタンドの上層部には貴賓席が設けられ、それぞれの階級により、調度品等にも差があるのには、階級意識が強く感じました。そのメインスタンド四階のメンバー席の事を例記しますと、クラブ会長（中国系）室、サルタンの室、国会議員室、貴賓室、役員室等、ホテルなみの個室で占められているのには驚き入りました。一般席は立見席が多い。

この競馬場の自慢の一つに、立派な馬の研究所と、病院の建物がある。

一流の医者を集めて常に研究し、各競馬場と情報交換を行なっている。

公正な競馬をモットーで、薬物テスト（主として興奮剤）が厳重に行なわれています。検査は、マラヤ競馬協会が直接実施しています。

その方法は、出走日の前夜に尿を採取し、当日の朝、唾液を採取、その結果、検査に合格しなければ競走に参加出来ない、競走後も、四着まで検査を行い、合格しなければ、配当金の支払いが行なわれないし、薬物検査を短時間に処理するのは驚いた。この点我々競馬に従事している者として、考えるところがありました。このように検査を厳重にしなければ、ならないという事は、日本と同じように、薬物使用する者がいるということでは、東洋人の特色なのかという事も、考えさせられました。

厩舎については、あまり立派とはいえない。厩舎入口にコンクリートの水槽



がありましたので、防火水槽かと思つて、素通りをしようと思つたら、この水槽は、長さ五十米、巾三十六米で、ここで馬の運動をする処です。往復すると、一二〇〇米のトレーニングに相当する施設ですと、自慢していました。

発売機については、近くオーストラリアから、発売と払戻しが、一人一台で行なえるユニット馬券用のものを、取入る予定であると、見本の機械で説明してくれました、それから場内の案内板は、英字と、現地語が併記されている。

### ペナン

九月三十日七時三十分宿を後にして、シンガポール空港へ車で向う。

空港を目前にして、道路に遮断機が降りる。車はストップ、遮断機の前を、緩緩と飛行機が通る、なんと日本と違うところは、道路が滑走路なみとおうか、遮断機が開くと飛行場に到着す。

九時二十分発ペナン行に乗り、十時二十五分ペナン飛行場に到着、この飛行場は、戦時中の日本航空隊の前線飛行場を思わせるような施設です。

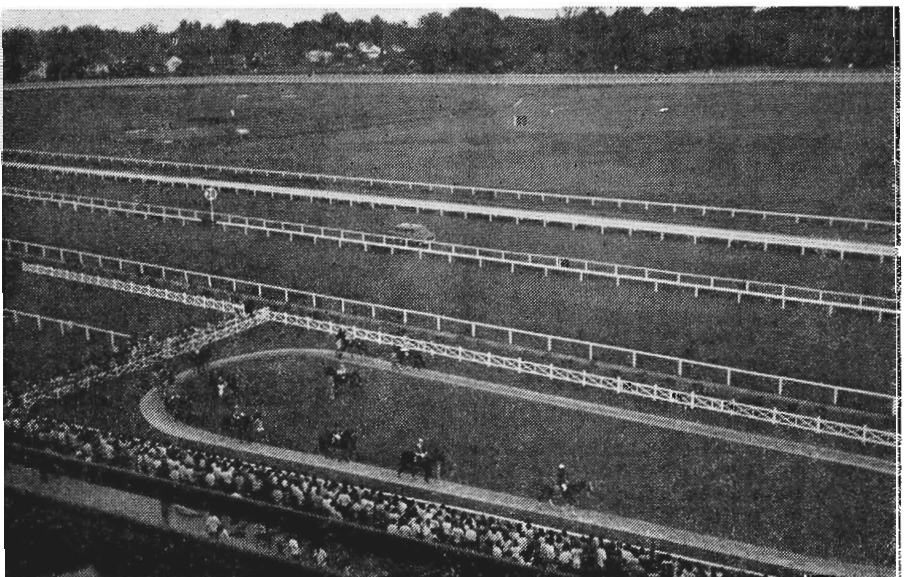
ペナンは、マライ半島の北西岸、マラッカ海峡にある島、面積二八〇km<sup>2</sup>で、一八三七年海峡植民地の主都がシンガポールに移ってから衰えた。

然し、最近ペナンも観光の島として、見直されている処から、飛行場の隣に、近代的な施設が建設中でした。

観光の島ペナンは、太陽のふり注ぐ汚れない熱帯の島、黄金色の砂浜、島を包



引き馬状況 (ペナン)



下見所 (ペナン)

む熱帯独特の緑、その素晴しきまで、世界的な避暑地として、現在人口五十万人を有し、マレー系、中国系、インド系、英系など多彩な民族の結合の国であります。

緑に囲まれた競馬場に案内されました

が、前日マレーシア国のサルタン(マレーシア國を十二州に区分をして、それぞれ統治する王様で(日本の知事のような人)の会議が開かれて、今日は、そのサルタンが競馬場に多数観覧にきていますので、警備は厳しいようでした。

競馬場入口は、車が乱雑に置かれ、場内外の駐車場には、自動車の外に、数多くのオートバイが駐車し、オートバイ用のヘルメットの一時預り所が数ヶ所あったのには珍らしいと感じました。日本では考えられない情景でした。

スタンドは、四十年前の建物であり、四年前から、隣に新スタンドを建設中で、完成すれば、一万人収容可能とか。

ここは警備員の数も多く、七十人を配置し、外に警察官が出張警備をしている。その数は、政府が直接配置をしているので、確かではないといっていたが、行く所、各所で見受けられ、警備の力が大である事を痛切に感じました。

競走馬は、マラヤ競馬協会に登録され、その数は約千頭です。毎年更新のため、二五〇頭が、オーストラリア、ニュージーランド、英国などから輸入されている。各場には六五〇頭内外の厩舎があり北海道のばんえい競馬のように、四場を、開催毎に廻って行くことになる。

ファンの服装は、常夏の国ということもあって、軽装が多く、若い年齢層もかなり見受けられました。

ただ女性ファンは少なく、レースが始まると、声援を送る大声が、一段と騒がしくなる情景であった。

勝馬投票の種類は、単、復、連、重勝の四種類で場内発売であり、控除率も三〇%、その内訳は、ターフクラブ一〇%、政府納付金一〇%、賞金一〇%配分され、ターフクラブの余剰金は、慈善資金に寄付される。開催外の時は、他開催競馬場の投票券を発売し、一〇%の手数を徴収している。

また変わった施設としては、馬場内がゴルフ場になっている、内側に九ホール、走路を経て小高い丘に九ホールと合せ

て、十八ホールのゴルフ場として、レースのない時に、会員に開放している。

使用料は二十ドル、外に靴賃料二・五ドル、道具賃料は十ドルで、クラブ会員、馬主はゴルフのメンバーでもある、ユニークな競馬場の利用と感じさせられました。

### オーストラリア

十月三日メルボルンにきた、かつてオリンピックを開催した事はよく知られている町である、中心ビル街を過ぎ、煉瓦造りの住宅を通り抜けて、市の北西六十軒の郊外に、克蘭ベールバク牧場に到着した、道すがら昔イギリス人によって開拓された町らしく、なにもかにも、イギリスのにおいが感じられる。

### サラブレッド生産牧場

克蘭ベールバク牧場は、見晴しの良い小高い丘の続くところで、牧草は良く繁茂している。六年前に六人の出資により開設され、牧場面積は七五〇エーカーで、種雄馬二頭に繁殖牝馬一〇〇頭、内訳は自分所有四〇頭、委託馬六〇頭を飼育しており、繁殖から育成まで、従業員八人ですべてを行なっている。

午後からセント牧場ストックウエハム牧場等も視察する、各牧場とも、レースで良い成績をおさめた馬を、他国から買入れて、血統を明記した写真入りのパンフレットを造りPRに努めている。

### フレミントン競馬場

十月四日

前日メルボルンの生産牧場を視察の為

町中を一直線に行き過ぎてしまいました。が、この町は、ビクトリア州の州都で、イギリスの伝統を受け継ぎ、ヨーロッパ風の都市計画がなされて、広々と落ち着いた街である。大きな楡の街路樹も新芽をふき、桜が満開で、日本で味わえない春たけなわという良い季節でした。

緑と建物との調和が、イギリス人によって精練されたという感でした。

オーストラリアには、六州があり、それぞれ別の法律によって管内の競馬クラブや、登録協会等を統制、監督している。また主幹クラブの委員会は、競馬の統轄権を持つと同時に、苦情処理機関でもある、競馬クラブは、非営利の会員制団体で、運営は会員が選出する委員会を中心となって取り扱っている。

ビクトリア州には、四ヶ所の都市競馬と、五十ヶ所の地方競馬があり、メルボルンには、ビクトリアレーシングクラブがフレミントン競馬場で、ムービーバレー・レーシングクラブは、ムービーバレー競馬場、またビクトリア・アマチュア

ターフクラブがコーフィールド競馬場とサンダウン



下見所 (フレミントン競馬場)

競馬場で、それぞれ小開催されている、五十五ヶ所の地方競馬は、クラブにより、シーズンには年一、二回の競馬を開催している、ビクトリアレーシングクラブは、ビクトリア州の主幹クラブで開催を統轄している。フレミントン競馬場では、開催日であった為、駐車場から降りて、スタンドに向うが、入場門はクラブ会員は優先で、一般者は、二・五ドルの入場料を支払い、車やバスで、ぞくぞくと詰めかけるファンの群を、場内へ

と、てきばぎと吸いこんでいる、一般入場者の服装は、日本流に言えば普通であるが、クラブ会員は、英国流の男性が着飾った婦人を伴って、いかにも楽しそうに入場してくる、木陰のベンチで休みながら、出馬表を開いている人、場内の芝生のバラソルの下で、ビールを飲む若者達、ここは女性ファンの多いせいでもあろうか、実に華やかな雰囲気であった。

厩舎は、競馬場に一八〇馬房と、個人馬房一〇〇馬房があり、他は郊外に散在する個人厩舎、及び牧場より車輸送している。出走する馬は、若い女性のきゅう務員に付添われて、馬繋場から下見所へ、下見所は、メイソスタンド(会員スタンドと本馬場との間)の前で、ここは動かず座ったまま下見が出来るが、一般スタンドのファンは下見が出来ない。

勝馬投票券の種類も、単勝、複勝、連勝単式、連勝複式、重勝等で、場内の電光掲示板により、各種勝馬投票券のオッズが刻々と発表されている。

各馬の背番号を付けたきゅう務員により、下見所へ引きつけられる、騎手、調教師、馬主の作戦の打合せが自由に、下見所の中で行われている。

やがて三頭の誘導馬により、次々と本馬場に誘導される。

レース終了後は、優勝馬が下見所入口に引返して来ると、スタンドのファンから一斉に拍手と共に歓声があがり、馬場とスタンドとの自然な盛り上がり楽しい雰囲気であった。

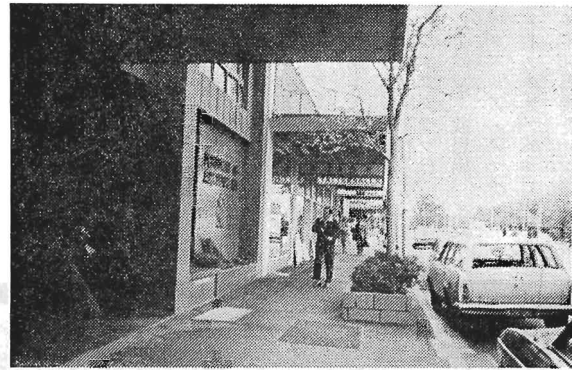
食事に案内され、食堂では、肉を食べ、ワインを飲みながら、盛装したご婦人が行きかい、まさにファッションショーのようで、全体の約半数位いる女性客のせいだろうか、競馬場ではなく、レストランという感じである。

さてここで、日本の競馬場にはないものに「ブックメーカー」があります。現在では登録制となり、場内で店を開いて独自の商法で営業している、これは公認の私設馬券発売人である、百年の歴史を持つこの制度は、ファンの中にも根強く浸透し、今もなお愛好されている。ブックメーカーは独自の倍率を出して馬券を売っている。その売上げも場内トーターの売上げの一〇倍も売上げがあり、これも長い伝統の「落し子」の感がある。

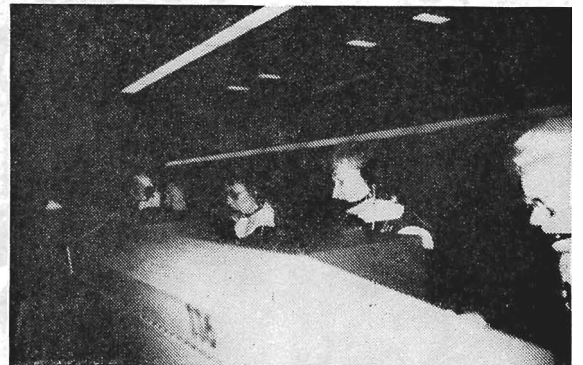
ここにも現在のスタンドの外に四階建の新スタンドを、九〇〇〇万ドルを投じ、五〇〇〇〇人収容の席を確保する近代的設備が施されている。内部の食堂は立派で、何れも清潔的で、古いスタンドも良く手入れされている。交通も街の中心より電車で二〇分、三分毎に走っている、入場者の二五%はこの電車を利用している。

### ビクトリア州TABセンター

TABとは、トーターゼーター、エージェンシーボードの略で、場外馬券専門の会社です。各州に一つのセンターがあり、これに各支店があって、センターと連絡して各地の平地競馬、トロッター、ドックレースの場外馬券を発売している。



ビクトリアTAB



ビクトリアTAB電話投票所

る。自分の州のだけでなく、他州や、他国のレースまで取り扱っています。

このビクトリア州では、三十五の支店と三八五の代理店、これは人口八千人に一ヶ所の割合で設置されている。

レースの開始五分から十五分前に締切り集計されて、競馬場へ送られ合算されて、レース終了後直ちに払戻し金が、競馬場から出されて全州に指令される。

街の中に各所に見受けられるが、ビルの中にも小さくTABの看板が掲げられているが、うっかりすると見失なう位で、人もその辺でたむろしている事なく、購入すると帰ってしまうという事です。

また電話投票の口座も、六四、〇〇〇人が加入し、新しく施設が完成すると、

一八〇、〇〇〇人が加入出来る。電話で自分の四桁の暗号により、残高を確認して投票する。一回の購入額は、最高二五万ドル、最低五〇セントである。

的中配当金は、レース確定後直ちに入金する。電話の会話はすべてテープに記録されているので、後日何にかのトラブルがあった時に使用される。電話投票加入預託金は二ドルで開設出来る。

加入者は年々増加している。電話料の一部負担も検討中で、TABの売上金の約二〇%を占める電話投票を更に推進する方針である。

ランドウイクー競馬場  
十月十日シドニー、ランドウイクー競



馬場を訪ねる。街の中の競馬場であるが、スタンドや建物等樹木が被い包んでいて、公園のような感じがする。入場門の前でスミス場長の出迎えを受ける。

このランドウイック競馬場は、ニューサウスウェールズ州の都市地区競馬四ヶ所の一つで、オーストラリア・ジョッキークラブが主催している。古い伝統を持つ競馬場でもある。

このクラブは、州の主幹クラブとして会員二千人を有し、州内の競馬を統轄、監督すると共に、各州の主幹クラブの協力を得て、オーストラリア競走馬の血統登録や馬名登録を全国一律に実施している。各競馬運営は、主幹クラブから任命された七人の開催理事が全責任を持って当り、理事は施行規則により、自由裁量で処理出来る権限が与えられている。

組織、運営についても、ビクトリア州と同じであるが、配当金の控除率は、ビクトリア州で一五％で、政府納付金は八・五％であるのに対し、ニューサウスウェールズ州では一四％、納付金率四・四％と変っている。

施設についても案内されたが、クラブ会員のメインスタンドは最近改築された建物で、エスカレーター等の近代設備です。貴賓室は、首相、前首相等と席が指定されている。一方一般スタンドは、昔のままの建物でお粗末で、会員中心の競馬の感を更に深めさせられた。

スタンドより見るコースは、目がさめるような鮮やかな芝コース、右廻りで一

周二、二一三、内側に三本の芝コースと一本の砂コースなどがあり、芝コースの管理のために、二六、〇〇〇屯の水槽があり、これより走路内欄の上部パイプに穴があいていて、水槽に連絡して、パイプを開くと芝コースの散水機となり、風向きによって、パイプをパイブレンチにより角度を変えて廻るといふ事です。考え方は良いと思うが、パイブレンチで手作業とはどうかと考えさせられながら、ランドウイック競馬場を後にした。

#### ニューサウスウェールズTAB

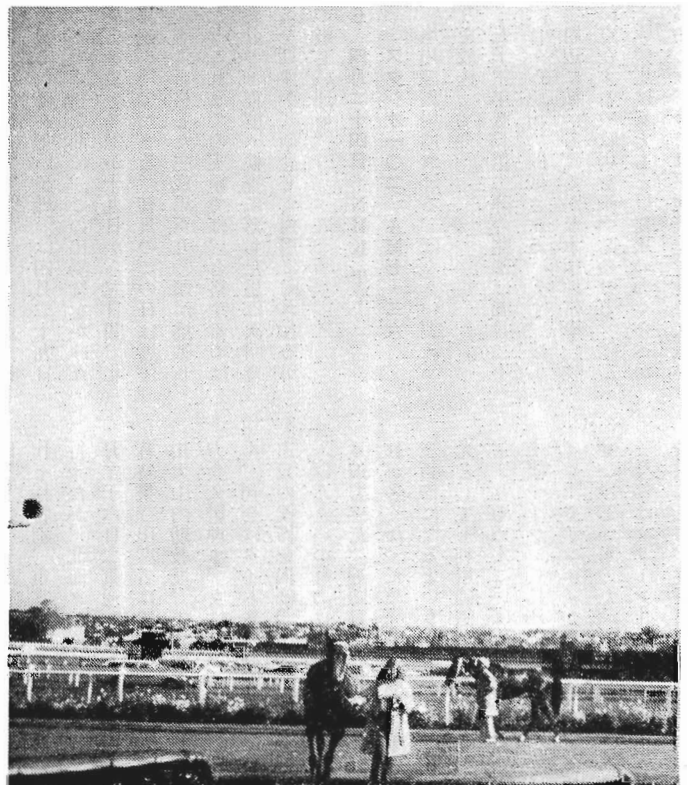
シドニー市内にあるTAB本部に出向き、ダット技師長より説明を受ける。

TABの場外売店は、五三八店あり、その内人口三五〇万人のシドニーに二五〇店あり、電話投票も一八名の機械で口座数も四五、〇〇〇人となり、口座開設は五ドル預託すると出来る。近く一九二台増設する計画であり、ビクトリア州のTABと同じである。

#### カンタベリ競馬場

十月十一日最後の競馬場へと午前十時ホテルを出発する、タフクラーダ所長ウールシーさんの案内で施設を視察する。

ここでもファン対策として、一、五〇〇万ドルを投じてスタンドの改築工事が行なわれ、四ヶ年計画のその一期を四〇〇万ドルで完成している。ここは一席毎の確保を主体に置いての計画で、エスカレーター等の近代設備、食堂等は、日本のデパートより立派である。この中でオーストラリアの他州の実況放送がな



カンタベリ競馬場女性きゅう務員

れ、他場の馬券も発売している。

今日は最後なのでブックメーカーについて木人に聞いた処、三、四人が一組となって発売する人、記録、お金を払う人等が組となっている。カンタベリ競馬場には、七〇人でトター発売の三倍は売っています。席料は場所によって変わるが、一日二〇〇ドル前後であり、これはクラブの収入となる、ブックメーカーは発売表を一週間以内に州の財務局に提出すると同時に二・二五％の税金を納付しなければならぬ、その中から州政府では一・二五％をクラブに交付される。

他に馬券一枚につき、一セットを州政府に納金される。機械発売が多くなってきたので「ブックメーカーの共倒れがないか」といった処、共済組合を結成しているの、ファンに迷惑をかけることではないと、自信をもっていたが、税金が高いのもうからないと、さかんに力説していたが、「他人のフンドンで相撲をとっている」ような感が深かった。以上マラヤ、オーストラリアの競馬について見聞したままに、綴りましたが、ニュージールランドの競馬については次回に報告致します。

# マスコミに取り上げられた ばんえい



全国的に比較的暖い冬だったようです。南九州では正月に菜の花が咲いたとか。札幌では一月中にはほとんど雪がなく、雪まつりの雪像が計画どおりできないのではと心配された程度でした。

さて例年のとおりマスコミに取り上げられた「ばんえい」とその関連記事を紹介しましょう。

## 1 三月九日 NHK TV

### 「北海道の窓」AM六・二〇

上川郡中川町の中村十介さんは開拓当時馬と共に働いた。吹雪の中笹ぶきの小屋で大盛りめしをかつこみつつ、四十年間鋸と大斧で大木を切り、運び出す。馬と暮らした苦勞話を聞かせる。

## 2 三月二十六日 NHK

### AM一〇・三〇

長野県小諸の小諸節と、モンゴルの馬追い節、草笛がよく似ている。長野県は木曾馬などで、古くから農耕馬の産地として知られている。勇壮な蒙古馬と小諸の野馬が素朴な姿を見せる。

## 3 四月四日 NHK教育TV

### 二〇・〇〇

「ベルサイユのばら」の劇画作者池田理代子さんと阪大教授の対談で原始時代の馬産が語られる。

クレタ島にある古代ティフィナブ文字を解読すると狩猟民族時代は紀元前六千年から四千年まで円頭人を中心とした生活様式。同じく四千年から千五百年前までは牛の時代、千五百年から二百年前までは馬の時代であったということができ

る。それからラクダの時代が続いたという。

## 4 四月六日 NHK TV

### AM七・五〇

朝のレギュラー番組スタジオオー二五十三年度の第一回を開幕する北見ばんえい競馬を前に、訓子府で猛調教に励む馬を紹介する。

雪原を駆けるそりを犬が追う。太い肢、巨大な尻。坂を登り、村の中を駆ける。いななきが聞こえる。

## 5 四月二十日 北海道新聞

### ばん馬のテスト「命がけ」

力感あふれるレースでファンの血をおかせる『ばんえい競馬』は四月二十九日からの本番を前に、この出場権をかけた能力調教テストが十九日から三日間、北見競馬場が始まる。初日のこの日は馬体検査に合格した三歳馬百九〇頭が挑戦した。これまでの実績では、合格するのは三分の一程度。検査に落ちた馬は次回合格を期すか、断念して肉用に回されるかの厳しい運命。

## 6 四月二十四日 NHK TV

### スタジオオー二 AM七・三六

旭川競馬場における、ばんえい調教ぶりを放送。

五十三年度、第二陣の開催は五月二十六日から旭川で開催される。先ず、競馬場周辺に拡がるはるかな水田地帯や丘陵に点在する放牧場を画面にのせる。ばんえい競馬はもともと農耕馬の力くらべから始まり、今では平地競走を凌ぐ人気がある。

ある。レースは天候つまり馬場のしめり気大きく影響される。勝利のコツは第二陣害をいかにうまく越すかにある。

## 7 五月十三日 北海タイムス

北見競馬場において、二十五周年を記念して、ファンにプレゼントする記念品を紹介する。五本入りのたばこ(チェリ)と使い捨てのライターである。たばこの箱には、内田靖夫氏のばんえい馬の力強い漫画風イラスト。裏には、今年の日程と重賞レースを刷り込みPR。

## 8 五月二十六日 北海タイムス

市営ばんえい競馬は昭和二十八年発足以来、二十五周年を迎え、主催各市はそれぞれ特別、重賞レースなど記念行事を行ったが、北海タイムス旭川本社では五月二十六日二頁通しの「ばんえい競馬今昔特集。出席者は旭川市鈴木審議員、旭川大山内助教、市議員三郎氏、競馬協力会久居理事、女性ファン地崎昌代さん、司会はタイムスの高安専務、冒頭に市長の挨拶を掲げ、座談会に入る。

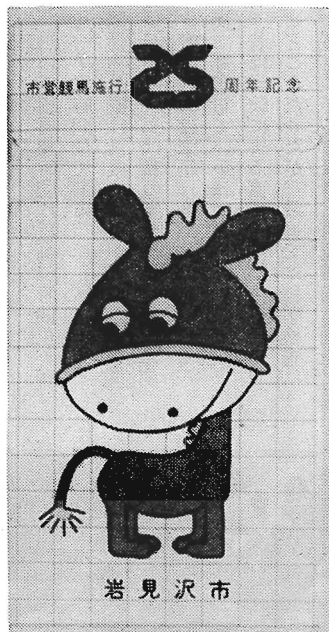
ばんえいの魅力は馬とレースにみ�る迫力感だ。近頃目立って女性や家族連れが多くなった。売り上げも二十五年で三百倍になるという上昇ぶり。北国の観光としても利用価値がある。サラブレッドよりもめんこいばん馬。ばんえいの最上級オープン馬は四十頭いるが、ハイセイコーやテンポイントのような人気馬もぜひほしいものだ。

今年はクリーン化重点に場内出入りも厳重にして、VTRも二台増設、監視体

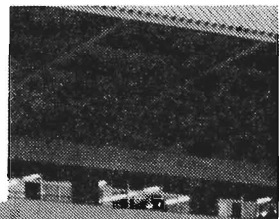


この日は長野県上林町と開田村に次々と生まれた木曾馬の仔を紹介する。昔の面影を残す木曾路の山あいに珍らしい芽ぶきの農家が見える。その軒先で、木曾馬のとねっこが母馬の乳をまさぐっている。「今年はウマ年、縁起もよし、日本の歴史をにやっているんだ。今後馬は

9 五月三十日 NHK TV  
スタジオ一〇二 AM 八・〇〇



絶やさぬ。」と親爺は意気込む。この地方では昔から馬の仔が生まれると、親族知己に挨拶し、隣近所にふれ廻り、村全体が活気づいたという。  
 (六月十六日再放送)  
 10 六月十五日 NHK TV  
PM 七・五〇



6月4日 市営競馬25周年記念レース優勝タイシヨオに騎乗の尾ヶ瀬騎手、記念品を手渡すのは一日執務委員長の荒木薫さん



げる。駅裏から見える丘の神社境内で行なわれる池田ばん馬は、よく知られている。

ほおかぶりした農家の人達が折詰をひろげ、酒を汲み、声援を送る中、濃縮の樹林を縫って豪快なばん馬競走が展開する。今年は婦人レースが二レース組まれた。婦人レースは坐ってやる申し合わせだが、激しい競り合いでつい立ち追いになってしまふ。

11 六月二十二日 NHK TV

「北海道の窓 馬の赤ひげ先生」

AM七・二〇

これは馬の赤ひげ先生、池本獣医さんの話。

馬には思考力はないが記憶力はある。放牧馬には人間と同じように親友ができる。これを友馬といっている。二頭づれが多く、稀には三頭づれもある。これは無二の親友関係で一頭が組長になる。分離しようとする、邪魔をするなどばかり咬みついたり蹴ったりする。

馬の病気は季節の変わり目六月中に多く、仔馬の病気は生後四カ月までに多い。馬の病気で一番多いのは外傷で、関節障害、骨折、その他の運動器病、次いで消化器疾患で疝痛、下痢など。その次に肺炎、繁殖関係となっている。最近、寄生虫性の病気が多くなっているが、これは狭い牧場に多頭飼育しているところに多い。

開腹手術は腸捻転のような場合にやるが、今迄平均一日一頭位手術を行なっ

ている。

馬の手術所要時間は最高三時間位、普通一〜二時間位である。

動物医療は農業のありかたに重要な関係がある。馬は私の友だが最近の多頭飼育時代には家畜は商品化して医療もそれに対応していかなばならない。

昔は経験による直感、洞察力が腕の見せどころだったが、最近では科学検査によるものが多くなり、医療技術も向上したが半面名人型が少なくなってきた。

12 七月十六日 STV TV

AM一〇・三〇

レギュラー番組「遠くへ行きたい」の中で津軽のばん馬競走を紹介する。

U字型のコースを騎手はそりに乗らず、後から走りながら馬を追う。青森、秋田は町村ばん馬の盛んな地方である。

13 七月十七日 北海タイムス

前本会事務局長内田靖夫氏が七月二十四日より個展を開くにあたっての紹介記事。絵画十三点のすべてが馬であり、競走馬、雪原にそりをひく馬、親子馬と馬への深い愛情がにじむ作品群。氏はプロ級の漫画家としても知られており、日刊新聞のカットなども手がけている。

14 七月十八日 NHK TV

AM七・〇〇

ニュースの中で若見沢有志婦人の「ばん馬首頭」を披露する。この本番は九月一日の特集番組として放送された。

15 七月二十六日 北海タイムス

競馬場でキャンプ……北見より



（監修）岩見沢市  
**岩見沢競馬音頭**  
（唄）山本ナツ子  
**岩見沢輓曳節**  
（唄）水木京子  
題字：岩見沢市長 國兼孝治



北見競馬場から連日ちびっ子達の歓声が響いている。『ばんえい競馬のないときはキャンプ場』と、九月から始まる

競馬のために馬が入きゆうする八月中旬まで市が開放している。キャンプするちびっ子達は同競馬場のきゆう舎内居室に泊まり込む。周囲には山が続き、自然環境は抜群。野ウサギやシカ、キツネなども、生息、近くには若松スキー場や自然

休養村の冒険公園もあり、散策地にはここと欠かない。

16 八月二十六日 UHB TV

AM九・〇〇

沖繩よなくに馬を紹介し、その勇壮な競馬を見せる。清澄な海岸の直線コースには約一万人の観客が詰めかけている。

よなくに馬は小柄で日本馬特有の粗野な顔をしているが、体型は軽種タイプ。

もう数少ない歴史記念物のように残存しているが、沖繩にはまだ馬が必要なのだという。

17 八月二十九日 NHK TV

スタジオ一〇二 AM七・五〇

馬部屋のある古い農家を紹介する。茅ぶきの屋根の家は立派で重々しく、特異な構造である。秋田市郊外にある二五人家族を目的としたつくりで、土間がひろく、三頭分の馬房がある。この土間は農具置き場となり、大きな炉には自在かぎがかかり、夏でも絶えることなしに火がある。その煙で天井は黒く光り木材の防腐剤になっているという。

18 九月一日 NHK TV

北海道の窓 AM七・二〇

「大学教授ばん馬を唄う」

北海道にこんな愉快な先生がいた。北海道教育大学岩見沢分校の吉田昭穂先生だ。先生はある日ブラリと見物に行った。岩見沢ばんえい競馬に魅せられ、そのとりにこになった、それはフアン的なものでなく、民謡の作詞作曲への意欲である。

その時場内から眺めた周囲の山並みが日高連山に似ていた。若き日（十八才―二十才頃）農作業をしていた頃の馬との暮らしが懐かしく思い出された。美しい緑に被われた山と丘を背景に馬と人の激しい闘志、躍動に眼を見はった。そこには人間と馬のきつな、親密さが象徴されていた。

先生は富山の生まれ、そこに越中小原節がある。それは故里の心を唄ったもの

である。

先年、馬年地日高新魁で教育研究会があり、農業実習を終えた夕食時この小原節が出た。この唄は明日の活力を生み出す。

昭和三十年頃から民謡に興味をもち、現在口ずさみに唄えるものは百位ある。民謡の弟子も百三十人位いる。

岩見沢ばん馬節はそのような環境の中で生まれた。競馬場にお百度を踏み朝五時頃から起きて練った。ばんえいのリズムが歌詞となり曲となって口ずさむうち、五線譜となり、山形譜となった。尺八とオルガンから音を取り、調整した。

さて、今日はおさらいの日。先生は紋付はかま姿、三、四十人の女性同好者が集まっている。娘さんや小供もいる。尺八に合わせて美声が高らかにあがる。吉田源鶴大師範は一人ずつ、一節一節を熱心に教え込む。

19 十月十九日 STV TV

11PM「馬なみにになりたい方に」

恒例になったSTVのばんえい版も今年で八年目。今回は旭川と北見のばんえい競馬を中心に展開する。司会者はお馴染み藤本義一氏、アシスタントに宮下順子さん。それにケーン―高峰さん、映画評論家として最近テレビの画面によく見える水野晴郎氏、第一回にも出演したところのある酪農大教授河田啓一郎氏、旭川工大教授丸山見市氏、ばんえい競馬評論家前田量平氏、歌手の北野玲子、それに岩見沢郷土資料室に陳列のばんえいで十

一勝したアキタハヤト号（はく製）も出席？するという多彩な顔ぶれ。それに旭川現地担当の加藤アナウンサーと多田千香さん。北見は工藤アナウンサー。その

他、昨年と同じように全国のブロックからファン代表が参加して「11PM杯レース」の勝馬を予想するという趣向。話は一馬力説明のやりとりから馬力に



11PM、旭川競馬場で録画中の、北野玲子さん、多田千香さん、水野晴郎氏

は精神力も重要。ばんえいの勝敗は馬場

状況、湿度、過去の実績、馬体重、騎手の技量と馬の意志力が左右するという。

旭川現地からは牝馬の最高重賞レース「クインカップ」の実況を見せる。一着

バンミハル、二着キヨヒメとなる。

スタジオの話ははずみ、愈々本題に入った感じ。サラブレッド種牡馬ポールドルーラーの種付料は一千万円という話。

発情の話。大きいのは鯨で一米五〇もあり、四時間もかかる。ラクダは長いという話などが続く。順番は一黒、二赤……

と大先生は産科専門の片鱗をのぞかせ。待望の「11PM杯」は人気薄ハヤトが優勝、連勝番号⑦①で、このレース

初の万馬券、配当は一万百円となった。スタッフの一人が的中し、その他は全部

はずれる。

20 十一月十三日 UHB TV

小川宏ショウ AM九・五〇

自動車のタイヤにオモリを受けて、ばんえい調教にはげむ洞爺村の西代きよはるさんを紹介する。

明年のばんえい競馬出場を目指して、きゆう舎には四頭の農馬がいる。そのうち、トウヤヒメは既にばんえいに出ている

歴戦の兵である。一頭は二木で明年のテストまで猛訓練を続ける。

21 十一月十二日 NHK TV

北帰行 馬狩りの島 PM七・三〇

ばんえいではお馴染みの倉本聡構成のドキュメンタリー……。

人気タレント高倉健の「語り」で進行

する。

北海道の東端にユルリ島という小さな無人島がある。ここにはもう用のなくなった昆布馬(昆布運搬に使った馬)を放

してあり既に野生化している。

春耕期に畑仕事をさせる以外年中放牧である。年に一度、間引といって馬狩り

をする。これは三才のおす馬と老令馬が対象となる。

馬狩りに船出の前夜、高倉さんは山本、大山老夫婦を訪ねる。

昔からの罫炉裏にしつらえたストーブを囲んで開拓時代の話に花が咲く。

馬がいなかったら開拓はできなかつた。馬は木を倒し運搬して根っこや蔓のは

つた荒野を耕やしウネ立てもやった。まかしておけば、暗闇を間違わずに歩いてくれる。馬は家族の一員だった。放

牧してからも我々を見付けて走ってくる。だから馬市では、いつも悲しい思い

をした。何頭かの馬との別れはつらかつた。翌日ユルリ島に向けて船は出る。一

行は十四、五人、途中アザラシに出逢い、島々に近づくと岩壁の間をウミネコ

が飛び交っている。

一行は棹とロープをかついで一杯に生い茂った雑草の原野をいく。

やがて小高い稜線に馬が現われる。みな中間種か重種の農耕馬である。馬を追

いたてるかけ声が近づいている。はやしたてる叫声、馬は群をなして右往左往逃げ

げまどう。馬の顔から汗がほとばしる。平原を一直線になって走る馬群の空中撮影

は素晴らしい。

馬は断崖の果てに追いつめられ海辺に駆けおろる。しかしそこは絶壁にさえぎ

られて逃げ場を失う。

若者達は長い竿を持って窮地に追いこめられた二頭を投げなわでとらえる。よ

く肥えた体格のボス馬もつかまえる。逃げ場を失い海中へ飛びこむもの、転

倒するものなどのものが暴れる馬は生き永らえるものと去るものと分れてしま

うのだ。船まで引かれていき、つるし揚られる。

可愛そうな話だがこの子達は陸に上がつてから舎飼いで大きくし肉用として売

られていくのだ。これはどんな肉よりも美味なのだと言わさう。

22 十一月十七日 HBCテレビ

PM十一・三〇

(ばんえいハイライト総集編)

HBC午後十一時四十五分からの「ばんえいハイライト」も昭和四十八年以來

こととして六年目になる。毎年全期終了後、柴田アナの司会、旭

川道北振興の提供で、このハイライト総集編が放送されている。

ことしは十一月十七日、ホースニュース社の前田量平氏と柴田アナとの対談で

ばんえいを語る。

先づ、十一月十二日北見最終回に行われた農林水産大臣賞典の実況放送から始まる。この日の入場者は北見のレコード

オ、テツワカの強豪を抜き栄冠をかちと

る。という白熱のレース。いつもながら年最高の人気レースだけにファン

の熱狂ぶりが画面に躍る、売上も全道最高の一レース一億。

話題はことしの名勝負を追想することとなり前田氏は帯広のイレネー記念と、

岩見沢の文月賞をあげる。

イレネー記念は農耕馬の馬産地競馬として帯広が十数年来やってきた三才の重

賞レースだが三才は馬の幼年期で能力が不同であるためいつもバラバラレースに

なり興行的価値がないとされてきたもの、それがことしは全馬一団となってゴ

ールに殺到する大激戦を演ずる名勝負になった。

一般的にことしの三才馬は能力が揃い面白かつた。

七月九日に行われた岩見沢の文月賞はハヤホマレが優勝したが、これはサラブ

レットの五大クラシックにならつて設けられたもので、毎年レース内容も充実して

きて楽しくなつた。

取得賞金の点ではオープン級、テツワカが一、一一九万と一千万の大台を大

きく超え、通算ではハクリュウと並んで三三〇〇万となる。

リーディングジョッキーでは一〇〇勝の金山がトップだったが、おしくも反則で

除外された。山田、九七勝で一位、木村七八勝、工藤六六勝と続いた。山田騎手は柴田アナのインタビュに

とです」あなたは障害上手追込み上手といわれるがレース中どうやって馬を追っていますか「他馬の流れと自馬の調子を考えて全力をあげる。馬場の状態でレースが二分位の間は第一障害からダッシュしていく、三分四分のレースでは、自分のもち味を發揮して勝負する」といっている。

最後に市協鈴木事務局長が登壇、全一、〇三〇レースを終了売上げは二二五億円となり前年比一一二%の好成績をみた、ことはうまだしや市の二十五周年を記念して特別レースをやった。明年は公正レースを別途として近代化をはかり第二障害にVTR増設、馬場整備の機械化をはかりたいと抱負を語る。

最後に前田氏は発売所の混雑防止のために機械売りの実現、冬季休催期間内の屋内ばんえい開催はどうかと進言して終る。

23 十二月二十二日 NHK TV

PM七・三〇

「北帰行 さらば道産馬」

広野を駆ける農耕馬の中に小柄な馬、これぞ道産子といわれる北海道で生産された馬である。海上はるか小島が見える。ユリ島である。ここではかつて昆布漁で働いた馬がみすてられたように放されて野生化している……と前作の「馬狩りの島」の名場面が再放映される。今回も倉本聡と高倉健による構成となっている。ユリ島の再映が終わると釧路原野を走るアスファルト道路が延々と続き

大衆毛の農協連育成牧場にたどりつく。

そこには三十頭ばかりの馬が草原に群がり小川を渡ったり林の中をいく。車を降りた高倉が馬群の近くへ行く頃牧童が馬を飛ばしてくる。阿部畜産課長だ。それから屋内の対話となる。ここで牧場の飼育係長関さんが馬の画を描いてみせる。相馬絵風の水墨画だが友人の腕前に高倉もすっかり感心。馬を描いた映画の製作に来た内田吐夢監督が釧路で長期ロケをした話。互に呼び合う馬の声の話。ばんえい競馬の馬としての話。ばんえいは今馬の生きるただひとつの道だというのが高倉はどうしても人間で……残酷だナアと思ってしまうと述懐する。旭川の山本鱗一さんは馬は働けなくなると秋には売られていく。そんな時は大黒柱を失ったように激しい愛着を感じたものだ。あの馬も肉になってしまったんだろうという。窓外の斜面は吹雪に荒れて馬頭観世音は白雪に埋もれている。画面は大雪山麓の造材現場に移る。雪をこいで馬と人はいく。数十台のブルドーザーとトラックにまじって今なお馬による造材運搬にはげむ人は富士晴雄さん。「もう私一人位でしょう」と富士さんは冬山造材における馬の卓越した能力を説明する。降りしきる雪、激しい吹雪で馬毛は凍り頸にはツララがひかっている。馬は大きな顔を高倉の胸に埋めて動かない。年々減少していく馬と激しい労役とたくましさを描く。吹雪の中をトラックに乗って山を去っていく道産馬の姿に哀愴が交錯する。

今回の放送は先月十六日に放送した「馬狩りの島」につづいて制作されたもの。なんでも前作は放送最中から「残酷でないか」という抗議めいた電話があったそ

うでこれた手掛けたディレクターから相談を受けた。私も永い間ばんえい競馬をやってきたが毎年同じような抗議を受けたものである。その都度私は人間や家畜

今年も12%増（売上げ）

丈夫で長持ち1億円馬誕生も

いまや公営レースの旗頭

たかがばんえい  
というなかれ





には生活の意義、生きていくための努力が必要と思われる。病人や愛玩用の動物などは別として、生きていく種族を残していくため、時には厳しい条件にも耐えなければならぬ。ましてやばんえいは造材や客土などの労役とは異なり楽な労働で短時間で終るから決して残酷ではないと説明してきた。しかしそれが肉用となると「残酷でない」とする理由はいかに苦心しても説明しがたい。馬は古来人間生活に最も近いところで生活していたし家族の一員であった関係から尚更そう思われるのであろう。ばんえい競走において平場レースでは重量を軽くしてやるべきだとする主張はそんなところにも理由がある。鯁は眼にクイ打たれてヒタヒタと震えながら腹裂かれていき、生け作りの鯁は大きな目玉をギョロつかせて人間を見ている。白魚は口中で跳ね上がり風流「おどり喰い」として有名である。人間の命は地球より重いと生物生存の原理とでもいうのだろうか。

24 一月十一日 NHK TV

PM 10:00

NHK五十四年の大河ドラマ「草燃ゆる」は戦国時代の馬が随所に出てくる。これはその当時の軍馬の話。特に鎌倉幕府創設に最も功績のあった義経軍団はみちのくの馬産地を背景に一万騎の編成といわれそのほかに別動隊の精鋭騎があった。元来源家は武道馬術が盛んであったという。しかし当時の馬は一米三〇位の小格馬で、しゃくれてとがった顔つき

に牛頬といつて最も悪い相であった。騎馬としても大いに働いたがこの兵団の活躍を最も大ならしめたのは駄馬による兵糧の補給力であった。馬はその体重の三分の一を背中にのせ一日中走り廻る。当時の戦闘における運搬はすべて駄載によるものだったという。今なお語り伝えられる当時の名馬としては池嘆（いけげつき）、磨墨（するすみ）などがある。時速四キロ位だったというからハロン三分位か。さてその頃の馬の値段はどれほどか。これは延喜式という駄馬価格のきめ方だ。馬格を上中下と区分し、隠岐島馬は百束（一束は米二升の値段）日向馬、上野武蔵馬は四百束（現代の価格に換算すると五十万四千円位）であった。江戸時代は太平になれて馬政衰え、鎌倉時代は最高だった。

25 一月二十七日 NHKラジオ

AM 5:25

「早起き鳥 農業トビック」

今日はレギュラー中村徳男の馬産奨励予算の話。戦前は国防の見地から膨大な馬の生産、育成、利用奨励の予算があり一時は百五十万頭をこえるいきおいであったが、戦後馬の国家予算は絶無となり今や馬は二万五千五百頭に激減。肉用として約二十万頭分が輸入されている状況である。珍らしくも約三十年ぶりで馬産奨励予算が二千万円計上された。これは種牝百頭分の購入補助という。中村さんは馬の五十三年市場平均価格は四十七万円で高いのは七十八万円。但しばんえい

い競走馬は別。九州で馬肉は和牛並みの高価を呼びキロ四千元もする。農耕馬はばんえい競馬の隆昌で生産を支えられていると馬産現況を解説している。

26 二月九日 NHK TV

北海道の窓「馬そり」AM 7:20

伊瀬和アナウンサーが馬そりを紹介する。今日は江別市元江別の農家矢沢三郎さんの馬そりに乗って出かける。二十年ぶりの馬そりに懐旧の思い出がする。鈴の音も高く雪道を行く轡は柴ぞりである。矢沢さんは馬を御しながら、馬櫛のよさを贅える。馬はどんなに深い雪でも脚を上げて踏み分け進む。交通事故はない。人が後向きに乗つても馬は一人で道を迷うことはない。伊瀬知アナは開拓記念館で馬そりに別れる。

次は同館の資料調査課長関秀志さんとの北海道の轡、特に馬櫛の話である。最近まであった子供の手そり、人力車代用の人力そり、犬そりがある。

馬そりは明治の始めから使われ札幌から銭函まで汽車代用として使われたこともある。消防馬そりは手押しポンプからガソリンポンプ時代まで使用された。

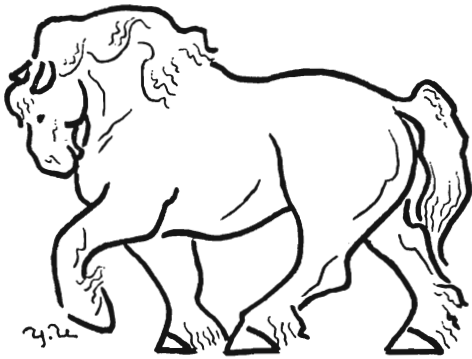
札幌で使われていた荷ぞりは柴巻きぞりといい、ばんえいでも今の鉄ぞりになる以前に使われていたものである。ズリが太く大きく曲げてある。これはロシアから輸入したそりを改良したもので札幌から北東に普及していった。

金（かな）ぞりは曳網をつける金具がついていて、ズリももうすく、ハナ木は真

直ぐ上にのびている。道南地方で使われていた東北系統である。これは道南と海上交易のあった道東でも使われたことがある。俱知安地方のべたそりは道南地方に拡がっている。これは上川中央部で客土の運搬用に使われたことがある。

冬山造林用には「たまぞり」「バチ」などがあり、二台連続したのを「バチバチ」といい地形の変化や長いものを運搬するに便利である。

十勝地方のマクラバチはバチの前に棧木がある。「ちょうつがいバチ」は宗谷地方で使われ、ハナ木に蝶番があつて、これに胴引をつけて引くようになってい。これは道南地方の一部でも使われた。北海道の馬そりはその地方の人の交流や産業によって分布され、「北海道馬そり地図」を作ると面白い。



# 馬事一束

(1) 五月十九日 NHKラジオ

AM五・一五

北海道の馬は、はじめ松前あたりに多くいた。東北地方から移入された南部馬系らしい。

明治初年米国の指導でトロッター種が入りドサンコとの混血馬がふえ、その後ヨーロッパからも輸入され、日清日露戦争後は濠州馬がドットと入ってきた。

田村さんは大正六年釧路に入植して農耕に従事土地の人達と馬産の基盤を造った。

今やばんえいの隆盛で釧路馬は世界的な水準に達した。

(2) 八月二十八日 NHKテレビ

AM七・五〇

沖繩には馬も馬車もある、交通規則の改正で左側通行の訓練を受ける四頭の馬を紹介する。農耕馬型だが足が細くやせている。

(3) 九月十五日 NHKテレビ

AM七・四五

巨大な火口から噴煙が上っている阿蘇の山麓一帯は濃い緑に被われ、ひろい放牧場には中間種と重種の馬がたむろしている。

(4) 九月二十一日 NHKテレビ

PM六・二五

恵庭市のばん馬競走を電波にのせる。

どさんことしては騎乗速歩、得意の側対歩をみせる、同地の土産馬保存協会の会員達が揃いのはんてんを着こんで活躍する。

(5) 十月十四日 UHBテレビ

AM九・〇〇

レギュラー番組「ハイ土曜日です」で愛知の「おうま祭り」を見せる。

小さな馬場を荒馬が駆け廻る、柵をとり巻く観衆は超満員、次々と若者が飛びつき、背にまたがるが、馬は振り落してしまふ、最後まで乗っている者はない、中には足を折る者もいる。

(6) 二月十六日 NHKテレビ

PM八・三〇

「雪国への招待―北国縦断紀行」語り手森繁久弥で雪の広野を行くドサンコの馬ぞりなどを描く。

(7) 二月二十三日

「ワールドカップスキー」

スイスのハーネンカム、コースは世界一の急峻を時速百〜百三十キロで滑降するという峻烈なレース、しかし街には二頭引の馬車が往来して観客を運んでいる速歩の歩様は日本と変わらない。

(8) 二月二十四日 NHK

PM六・三〇

使いみちのなくなった馬は山に放され自然に繁殖して野生化している。

最近馬を飼う者が多くなったが、これは舎飼の馬肉がうまいということになったからである。

ヨーロッパバイソンという野牛は大き



北見競馬場向正面に「きたみけいば」の花文字が見える

く産肉性もあつたが、一九二二年に皆食ってしまったが、今は食肉を禁じ、一九二七年にその保存協会ができた、西欧の話。

——この項の原稿はほとんど内田靖夫氏に頂いたものです。誌上よりあらためてお礼を申し上げます。

# ばんえい

## 1 軽種王国日高に重種の敗込み

生産過剰に悩む軽種は、数年前から繁殖牝馬の裾切りを実施し牧場に余裕ができたのが現状である。牧場を遊ばせておくのは勿体無。新冠町長の小野木恒氏はその利用方法として重種の生産をしてはどうかと、すばらしいアイデアが浮かび、本会に相談にこられた。ばんえいの現状を説明し、将来性のある計画に本会は諸手をあげて賛成し、計画推進に全面的協力を約束して別れた。

五月七日幕開けの北見競馬場に、新冠町助役橋本昭氏、町議会議長岡裕氏他七名の議員視察団が来場し、会議室で主催者との打合会を開き、生産頭数、出走馬の価格、肉資源としての利点、ばんえいの明るい将来性等について熱心に研究して帰られた。

六月二十二日、町議会で、重種生産に対する補助事業として一、〇〇〇万円の予算が議決され、スタートした。その概要を説明すれば、

(一) 当才牝馬二十頭を網走管内で十月頃購買

(二) 新冠町の農業二団体の会員二十名に對し、一頭平均四十五万円を五年間無利子で貸与

(三) 申込者が多数いるので、経営規模の小さい牧場を重点として貸与

(四) この事業は今後五年間は継続する伝統ある軽種生産のキャリアを生かし、重種生産王国新冠にまで、成功、発展されることを衷心よりお祈りする次第

であります。

## 2 競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に、六月十七日、十八日第一回帯広競馬初日、二日目松本、植田両監督官、八月十二日、十三日第三回帯広競馬第五日目、新田、奥野両監督官がそれぞれ来場、熱心な監督指導をいただいた。

また、星井班長及び岩淵監督官は九月十八日ご多忙にもかかわらず、道内出張の一日をさいて、わざわざ帯広競馬場視察にご来場下さった。

## 3 ミス雪の女王が一日委員長に

六月四日の日曜日、旭川競馬場で市営競馬二十五周年記念事業の一環として、一日委員長を計画旭川冬祭り「ミス雪の女王」荒木薫さんが選ばれ、朝の執務委員会の辞令交付に始まり終日あてやかな振袖姿で笑顔をふりまき、記念レースでは委員長として表彰式に花を添えるなどファンから大変好評を得た。

## 4 千葉県競馬組合事務局長来場

千葉県競馬組合事務局長加藤正敏氏他二名は、七月二十九日第二回岩見沢競馬第四日目に来場し、ご熱心に終日ばんえい競走を視察された。

## 5 保安協会理事長岩見沢視察

競馬保安協会大津英男理事長及び岡理事の二名が七月三十日第二回岩見沢競馬第四日目に来場、理事長のばんえい競走視察は初めてのことでありますが、岡理事は昨年から数回のご来場で顔なじみで

ありご兩名共に一日親しく視察された。

## 6 中央競馬関係者大来場

八月二十八日第四回岩見沢競馬最終日に中央札幌競馬の休催日を利用して、多数見学に来場された。

中央競馬会函館競馬場長椎井弥三郎氏は初来場。また、中央競馬会調整室調査役大沢武文氏引率の下に騎手、厩務員約百名が大来場、場内施設及び運営状況を



スタンドで観戦中の高倉健さん

視察され、その後一般ファンと共に終日馬券を楽しんでいたようです。騎手の中で、スター的存在の天才福水騎手と東の雄柴田騎手の顔もみられました。

また、総合企画室次長小川欽司氏は別行動でばんえい競走の運営状況を研究の為来場、パンフレット、統計資料等をもとに、ご熱心にはばんえい競走を終日視察された。

### 7 静岡県からお客様

八月二十八日伊東市議會議員中村和夫氏他七名が岩見沢競馬場を見学に来場された。

競馬場の無い県からのお客様はめずらしい。

### 8 高倉健さんの来訪

「網走番外地」等で北海道なじみ深い映画スター高倉健さんが、NHKテレビ番組「北帰行」のロケの合間をぬって、十月十六日旭川競馬場を訪ね、ばんえい競走を楽しんで行った。来賓室前は、女子従業員がサインほしさに長蛇の列、やはり人気スターはどこに行ってもモテモテ。

健さんがばんえい競走に来たのは二度目。初回は昭和四十七年「血ふぶきダンブ仁義」の映画ロケで、旭川競馬場でばんえい競走を撮影、騎手や厩舎関係者、女子従業員などがエキストラでかり出された。

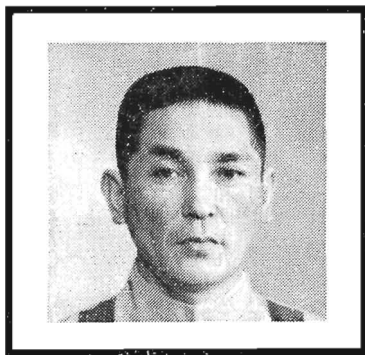
### 9 兵庫県からも

兵庫県公営競馬管理室安味國雄参事他二名の競馬関係者が十一日三日、最北端

の競馬場である北見に来場、初めて見るばんえい競走を興味深く視察された。

### 10 関本松男師逝く

昭和四十一年騎手免許以来、ばんえい騎手として活躍してきた、調教師関本松男氏（函館市本町通）は八月下旬発病入院加療中でしたが、五十三年度の騎手試験に一時退院して受験、十二月一日付で合格はしたものの、無理がたたたり、二月十七日午前四時六分、頸部癌性悪液質悪性リンパ腫で他界された。



道南地区で只一名の調教師として、ばんえい競走の生産と育成に道南の中心人物的存在であっただけに残念でした。享年四十八才。

### 11 百勝騎手二名誕生

連続五年一〇〇勝以上（本年も一〇〇勝）をマークしている金山騎手に続き、山田騎手（本年リーディング第一位）が一〇〇勝を達成、ばんえい史上初の一〇〇勝騎手が二名誕生した。年間開催が一〇

二日、一〇三二レース、騎手数三十七名での、この成績は立派なものでなかなか破ることができない記録でなからうか。

### 12 新人騎手の大旋風

今年には新人の豊作の年、開幕初日第四レースで初騎乗初勝利の鈴木騎手は、二十一勝、初騎乗二着の皆川騎手も二十一勝と共に☆印がとれ、また浜田騎手も十七勝をあげ、前原騎手は八月に負傷するまで八勝するなど、新人騎手の活躍がすばらしかった。

☆印がとれてからもこれ以上の成績をあげるよう努力願いたい。

### 13 ばんえい史上初の騎手事故

ばんえい三十年の歴史の中で、競走中に蹴られ、落馬負傷した事故は初のケースであった。八月十九日第四回岩見沢競馬初日第五レース号馬アキホープ号に騎乗した前原騎手は、発走後一五米の地点で両後肢で顔面を蹴られ落馬、競走中止したが、右眼失明の重傷であった。

昭和五十二年北見競馬場で第二障害で腹部を蹴られた事故もあったので明年度はその鼻木に「蹴止」を設置し、再発防止を図った。

### 14 日本一の長寿馬天国に

上富良野町の相良義雄さんが手塩にかけて育ててきた日本一の長寿馬「相姫号」が、三十八才の天寿を全うし、六月二十日午後ついに天国に旅立った。九州の「白姫号」も三十七才で亡くなり、北と南の長寿馬が二頭とも亡きあとは、住年八十才を背負った怪物「タマツ

バキ」がまだ三十五才で健在とのテレビニュースが流れ、「タマツバキ」頭張れとの声援を送りたい。

「相姫号」は学術的にも貴重な存在であっただけに、写真と馬具は根岸競馬記念公苑の馬の博物館に展示され、遺体は野幌の酪農学園大学獣医学科家畜解剖学教室に骨格標本として保存されている。

### 15 釧路市に競馬場?

釧路馬事振興同志会と釧路農協連が市議会に競馬場誘致の陳情書を提出、十二月の定例議会で市長は、検討、研究したい旨の発言をし、活発な競馬場誘致運動がなされているようだ。

しかし競馬法第十九条（北海道は六ヶ所以内）の厚い壁があり、また、全道五主催者の意向も聞かずに先行しているようで、はたして実現するかどうか？。

構想は、大森毛に四十億円をかけて競馬場を建設、道管（平地）競馬を四回二十四日、市営（ばんえい）を四回二十四日開催、売上は八十億円を見込んでいるようです。

### 16 帯広競馬場きゅう舎新設

老朽化した厩舎を撤去して、十一月起工、六月の開催までに完成させるべく、急ピッチで新築中である。

総工費約七億円、木造一部二階建、一棟二十四馬房二十二棟、水洗トイレ付の近代的なきゅう舎で付帯施設として馬洗場、たい肥場が設けられる。

### 17 青森県にばんえい競馬場誘致運動

青森県北津軽郡金木町長大橋忠勝氏は



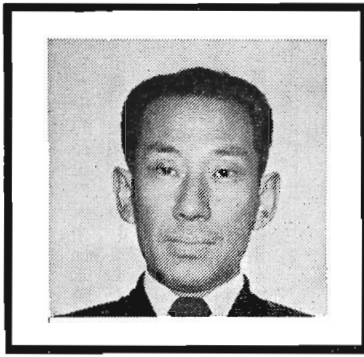
十月十日旭川競馬場を訪れた際に、ばんえい専用競馬場を同町に誘致する運動が起り、地域住民の切実な要望があつて、七月十七日町議会において競馬場設置に関する議決がなされ、関係機関に陳情していることを明らかにされていた。

### 18 平日開催日並のテスト風景

四月十九日から三日間、北見競馬場で能力テストを実施したが、入場者は平日第一レース並みの六、七百名が入場、特に十勝管内の生産者は十勝農協連千葉課長のテコ入で自家用車をつらねての来場でその熱の入れ方は大変なもの、昨年の能力テストも盛況であつたが、今年は晴天にめぐまたせいもありませんが、ばんえい史上、最高のテスト風景であつた。

### 19 ガードマンの交通事故死

ばんえい競走の場内警備を依頼している北海道総合警備保障KKの警備先任長千葉利夫氏(四十二才)は九月二十五日午前九時四十分頃帯広から旭川に移動



中、落合(幾寅)間に於いて交通事故の為逝去された。ここに競馬場警備業務二年間の貢献をしのび深く哀悼の意を表する次第です。

### 20 一日四勝の騎手三名

一日最高六騎乗制限の為、五勝騎手の誕生は困難であるが、本年度は四勝騎手が三名誕生した。

- 片平俊悦 二回北見二日目 六騎乗
  - 金山明彦 一回帯広二日目 六騎乗
  - 木村卓司 三回帯広二日目 五騎乗
- 特に、木村騎手の勝率八〇%は立派なもの。

### 21 米国产種牡馬の活躍

ばんえい種牡馬の主流は仏国产ベル系、ブル系であるが、米国产種牡馬の産駒が出場したのは昭和四十九年からで、傑出した馬もなく評判はいささか低調であつた。

しかし本年度初仔を出走させたベルジン系ジャンデヌマレイ号(本会で二〇〇万円補助)の活躍は目覚ましく、三才馬N〇・1のリユウタカラ、N〇・5のマサカツを出して一躍注目をあび、ベルジン系マルゼンストロングホースも能検査格馬九頭、N〇・11のタミオヒメを出すなど「青い目」ブームの年であつた。また七月二日第二回帯広第五日では一レースから三レースまで一着馬がベルジン系で独占する等青い目の話題が多かつた。

### 22 現役馬二頭種牡馬として購買

日本馬事協会が種牡馬として現役馬二

頭(ムサン、カネマル)を北見において購買した。

「ムサン号」青、九才、一四七戦二二勝、取得賞金二、九一一万円、馬体重九五・一キ、父ベル・ヴォルテール、母ベル系清琴、購買価格五〇〇万円、供用地網走管内。

「カネマル号」青、七才、七九戦十一勝、取得賞金七六三万円、馬体重一〇二キ、父ベル・ベルボンシエー、母ベル系錦、購買価格四八〇万円、供用地胆振管内。

これで馬事協会購買の現役種牡馬は四頭となつた。(五十一年タカナミ号、五十二年カツタイホー号)

なお本会から二〇〇万円の補助金が出ている。

### 23 一レース売上一億円突破

道内の競馬がみな終つた最終回の北見競馬場には連日ファンが集まり、第五日目の十一月十二日曜日は好天にめぐまれ、入場人員は九二三三名とバンク寸前、第九レースの農林水産大臣賞典競走はオーブン馬九頭のばんえい重量一トレンイスとあり、人気は最高頂に達した。投票所はまるで戦争そのもので、若干の発走時刻の遅れはあつたものの、売上げはばんえい史上初の一億円を突破し、一億三四四万円の驚異的レコードを樹立した。

全国三十一競馬場の最北端人口一〇万の小さな競馬場でのこの記録は、いよいよばんえい競走の一億円突入の黎明の鐘

として高らかに響きわたつた。

### 24 売上げ上昇率ベスト3は北海道で

全国平均前年比一〇・三%と低迷している地方競馬の中で北海道は前年に引き続き万乗の地位を確保した。

- 第一位岩見沢ばんえい 一三一・〇%
  - 第二位旭川 平地 一二三・九%
  - 第三位北見 ばんえい 一二〇・〇%
- 参考までに前年度全国一位は札幌(平地)一一九・〇%、二位旭川(ばんえい)一一七・四%でした。

### 25 一人一日馬券購入の新記録

一人平均馬券の購入額はばんえい競走では年間を通して一日あたり四六、四二六円で全国のトップクラスであり、十一月十日北見第五回三日目金曜日には生憎の寒風吹きまくる曇り空、入場人員二千名で最低ながら、売上げは一億四八五六万円で一人平均七四、七二八円の日本記録(データ不足で確実ではないが)を作つてしまつた。

ギャンブル性が強いことはあまり喜ばしい事ではない。

### 26 馬も人もバテ気味の五十三年

今年度の北海道の夏は異常な高温に見舞われ、こればかりが原因とは言えないが、年間通して馬の死亡が二十六頭と新記録を作り、また、本会職員も開催期間中入院加療者三名、競馬終了後一名とこれも新記録。

昭和五十四年度は馬も人も健康管理に充分留意してもらいたいものです。

### 27 濠洲でばんえい競走実現?

元地全協北海道駐在員の渡部岩彦氏は毎年数回濠州に渡航されるが、濠州のパラマタ地方に重種（クライズデル系）が五〇頭飼育されており、ある競馬場ではばんえい競走を開催したい話があり、資料の提供を依頼に本会を訪れた。本会としても資料をお渡しすると共にその実現に協力する事を約束した。

ばんえい競走も世界に飛躍する第一歩となるので、夢は益々広がりがせひとも実現できることを祈る次第です。

### 28 オセアニアの競馬研修

全公営で計画する委員長クラスの海外研修にばんえい関係から毎年参加していますが、本年は岩見沢市農務部長の谷村寿昭氏が参加し、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールの各地を廻ってこられた。（詳細別掲）

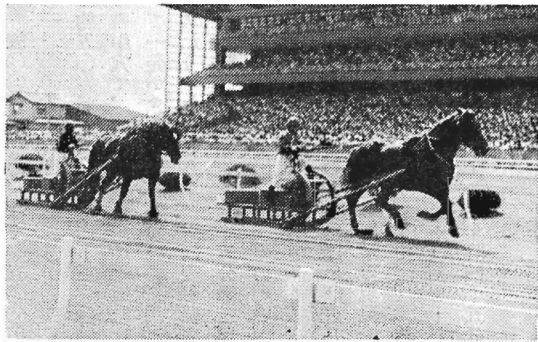
### 29 宇都宮でばんえいアトラクション

宇都宮競馬場で八月六日及び九日の二日間、競馬法施行三十周年記念行事の一つとして、ばんえい競走のアトラクションを披露した。

競走馬は五十二年に地全協騎手教養所で馭法等の研究用に購入したニシヨウホウとヨシイチの二頭。騎手は教養所の教官二名。

スタンド前の練習コース二〇〇米を障害こそないが、力とスピードの勇壮なレースを展開。日頃軽種しか見えないファンは、ばんえい競走馬のたくましい力走に万雷の拍手を送り大変な人気。

他府県でのばんえいアトラクションは



宇都宮ばんえいアトラクション

四十八年の大井に次いで二回目。

### 30 ばんえい競走馬の価格

最近のばんえい競走の隆盛に伴い、馬の価格も高くなってきた。十一月の入りゅう馬五四九頭について聞き取り調査で現評価格を調べたところ

最高 二、〇〇〇万円  
最低 七〇万円  
平均 三四一万円

で、オープン馬三五頭の平均は一、〇〇四万円であった。三才馬一八〇頭の平均は二四五万円。

二才馬一八八頭の購入価格は  
最高 三六一万円  
最低 四〇万円  
平均 一四二万円

で、五十二年調査の平均一二四万円に比較すると一八万円増である。

ばんえい競走馬も軽種馬並みになり、現金取引きの最高価格は、農林水産大臣賞典競走（一着賞金五〇〇万円）で優勝したハクリュウ号の一、七〇〇万円。

### 31 テスト落ちでも八六万円

ばんえいの能力テストは大学受験並みで、三才の登録馬五一九頭中、合格馬一八三頭の狭き門です。

能力テスト後、馬主会主催で臨時市場が競馬場で開かれています。テスト落ちした馬の運命は、馬格の良い牝馬は繁殖用に、牡馬は一部がお祭りばんば用で大半が肉資源としてと場行きようです。臨時市場で売買成立一五二頭の成績は

最高 一五五万円  
最低 六五万円  
平均 八六万円

馬肉の価格が高くなり、生体で一、百万円の時代なので、出走馬五八一頭の馬体重平均が九〇二キのばんえい競走馬は、肉資源としても肉牛より有利ではなからうか。

### 32 年令別チャンピオン

本年はスター的存在の馬が少なく、ドングリの背比べの競馬であったが年令別の取得賞金第一位の馬は、

6才以上 レイショウ一、三三三万円  
5才 スイショウ 九六一万円  
4才 ハヤホマレ 八〇〇万円  
3才 リュウタカラ 九七八万円

であり、取得賞金額別頭数は、

一〇〇〇万円以上 二頭  
八〇〇万円以上 八頭  
五〇〇万円以上 一六頭

年間一頭平均取得賞金額は一五〇万円であった。

通算取得賞金額ベスト3は  
ハクリュウ（七才）四、一一七万円  
テツワカ（七才）三、六九一万円  
ハヤツネ（九才）三、三七五万円

年令制限が十才だが、五千万円馬は五十四年で達成、一億円馬も夢でなくなってきた。

### 33 中穴の多いばんえい

年間一〇三二レースの払戻金の平均は一、五六四円で、道営（平均）の一、二四七円に比較すれば若干高額である。

ばんえい競馬払戻金		
払戻金額	レース数	比率
500円未満	89R	8.7%
1,000 "	276	26.7
1,500 "	228	22.1
2,000 "	149	14.4
3,000 "	142	13.8
5,000 "	87	8.2
10,000 "	57	5.5
10,000円以上	7	0.7
合計	1,033	100

道営(平地)競馬払戻金		
払戻金額	レース数	比率
500円未満	313R	31.9%
1,000 "	293	28.9
1,500 "	122	12.0
2,000 "	69	6.8
3,000 "	91	8.9
5,000 "	55	5.4
10,000 "	44	4.4
10,000円以上	18	1.8
合計	1,015	100

中央札幌競馬払戻金		
払戻金額	レース数	比率
500円未満	33R	22.1%
1,000 "	47	31.5
1,500 "	24	16.1
2,000 "	7	4.7
3,000 "	16	10.7
5,000 "	14	9.4
10,000 "	7	4.7
10,000円以上	1	0.7
合計	149	100

五〇〇円未満は少なく、五〇〇円、一、〇〇〇円の本命的馬券が約四分の一約五〇%が一、〇〇〇円、三、〇〇〇円の中穴で、ばんえい競走が平地に比較して一発がきく馬券的魅力の根源はここらあたりでなからうか。(別表参照)

34 十月以降発走時刻十五分繰上げ  
日没時間は全国三十一の競馬場中、最も東北にある北見競馬場が一番早い、秋のツルベ落しの日没にははらしながら開催しているのが北海道の現況でしたが、競馬監督課の了解を得て、本年十月以降の道内競馬場は発走時刻を十五分繰上げて、第一レースを十時四十五分とした。

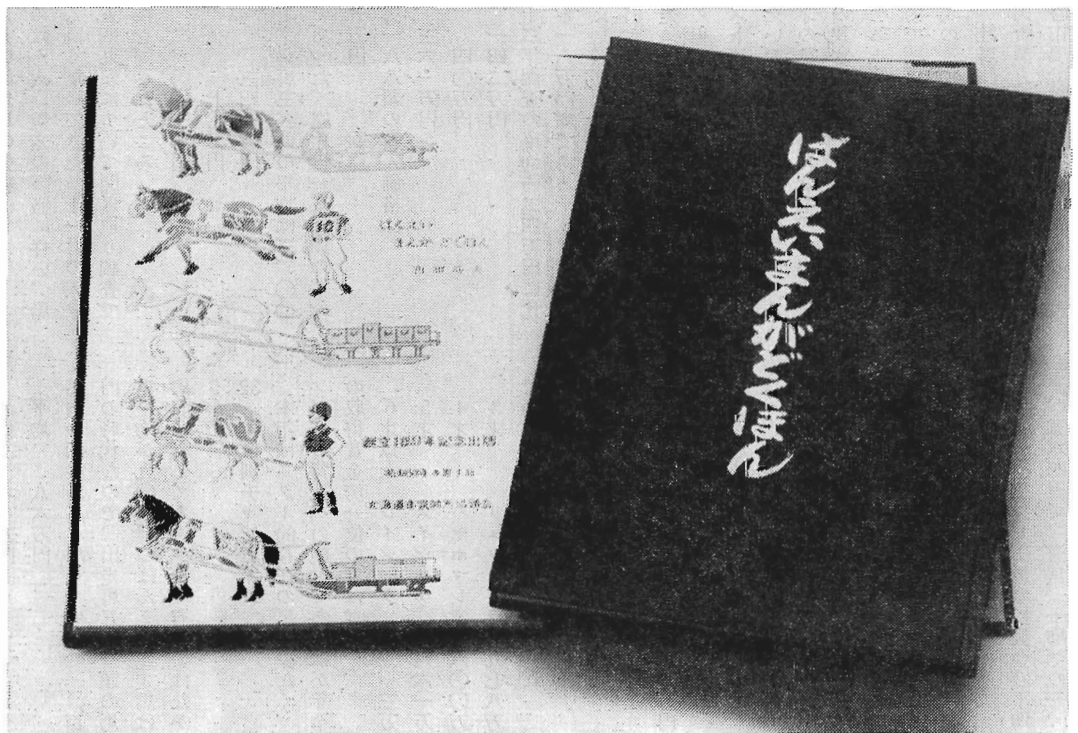
参考までに北見と他場の日没時間を比較すれば、十一月一日で、大井とは三十二分、佐賀とは一時間十七分の時間差があります。

### 35 記念品の色々

市営競馬施行二十五周年記念事業の一環として、日頃ご協力をいただいているファンに対し、各競馬場毎に趣向をこらした記念タバコ、ライター、ハンカチ、手拭等の記念品を贈呈し感謝の意を表わし、好評をほくした。

### 36 ばんえいまんがどくほんの発刊

市営競馬協議会設立十周年記念事業として、本会初代事務局長内田靖夫氏に依頼して執筆していただいた「ばんえいまんがどくほん」は、ワインカラー布表紙、アート紙カラー印刷、一四八頁の立派な記念誌として発刊することができた。



篠沢昭一氏作

# 「輓馬一代記」は休載

代わりに英著

「グレートホース」を……

前号から本誌に掲載し、一部マスコミに好評だった、ばんえい研究家篠沢昭一氏の創作「輓馬一代記」は残念ながら今回は休載となった。

同氏によれば、北海道に来てもう一度素材を確かめなければ続稿不可能の由、やむを得ないこと、いかにも同氏の真摯な創作態度が推察できて敬服にたえない。

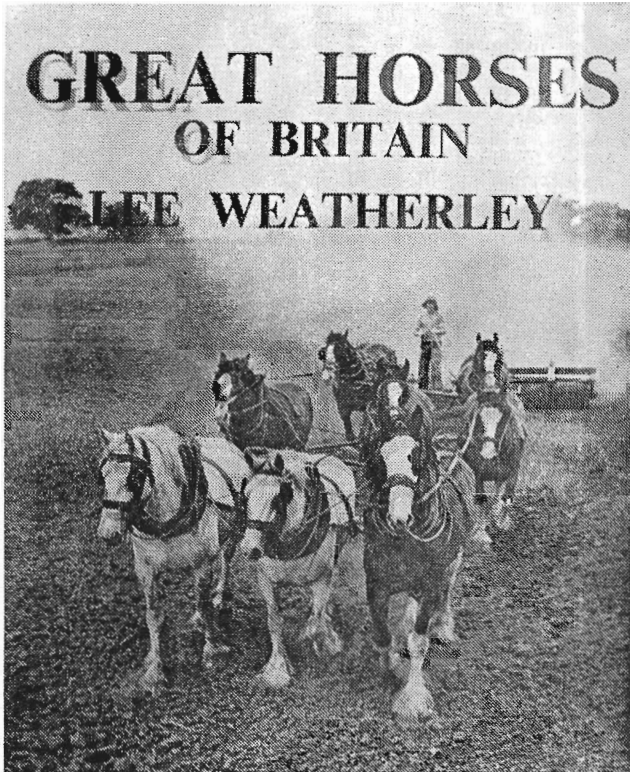
更に氏は、そのかわり?として、英国で最近出版になった「英国の偉大なる馬」(LEE・WEATHERLEY氏著)を手に入れたので見て下さいと貸してくれた。B5版二六七頁、全頁上質アート紙を使つての豪華本である。

日本にはこのような馬の本はひとつもない。特に現今のように機械万能の時代に、農輓馬の立派な本が出版されるとはさすが欧米の国情だとうらやましくさえ思う。

この本には使役馬の活動を中心に、種の優秀種牡馬、共進会、牧場、市場、馬具のつけ方、多頭曳きの馱法、農具、

装蹄、衛生、軍馬などが多数の写真と共に満載されている。篠沢氏の御好意に感謝したい。

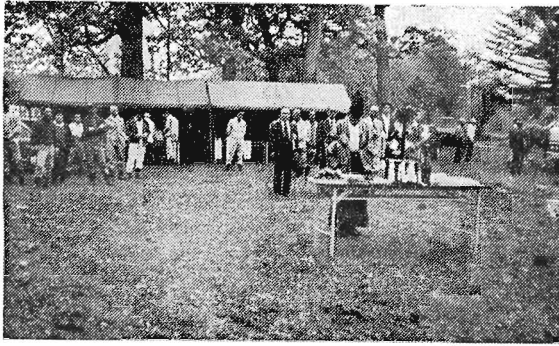
(内田)



5.1. Load-pulling with a vengeance -- over 125 tons of pine hauled a quarter of a mile on an ice road in Baraga County, Michigan, U.S.A. (happened in February 1893 and the 33rd year of Shire!) H.

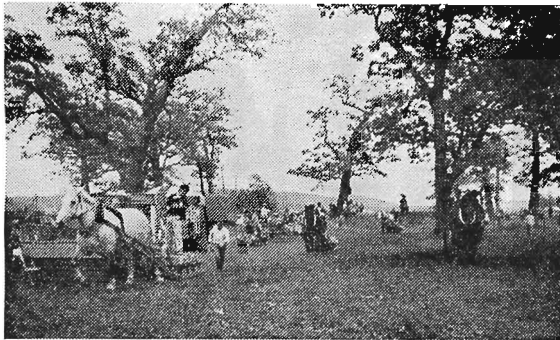


# 各地の祭典ばんば

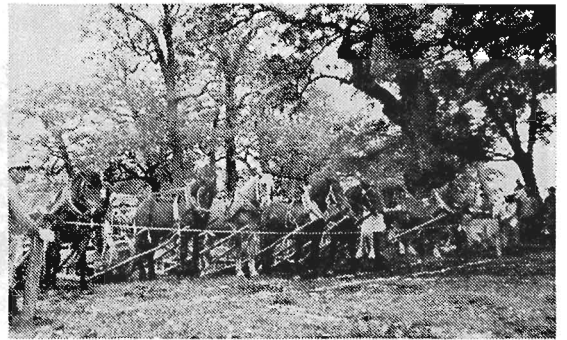


修 祓 式 (池田)

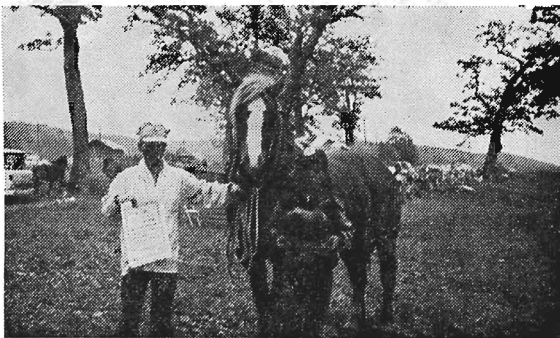
- 本会は馬産奨励事業の一環として昭和四十八年度より、申請のあった祭典ばんばの主権者に対して、副賞を出さしていただいております。初年度には十五件の申請がありました。昨年度は九件に減っております。本会としましては、本年度も二十件分の予算を計上し、各主権者からの申請をお待ちしている次第です。では、各主権者より送られて来た終了報告書をもとに紹介しましょう。
- 第二十八回池田町鞍馬競技大会
- 1 主催 池田町鞍馬愛好会  
会長 田中 弘
  - 2 開催日 六月十五日
  - 3 場 所 同町清見ヶ丘特設馬場
  - 4 出走頭数 五十七頭



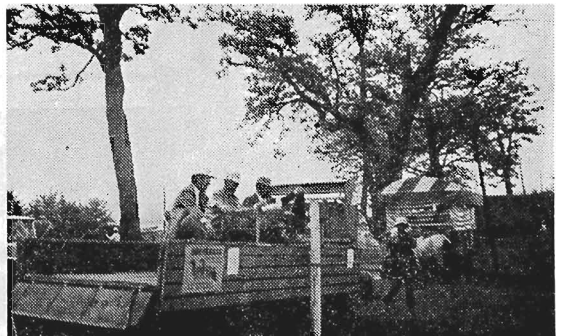
ゴール前 (池田)



スタート (池田)



市営競馬協議会賞受賞馬

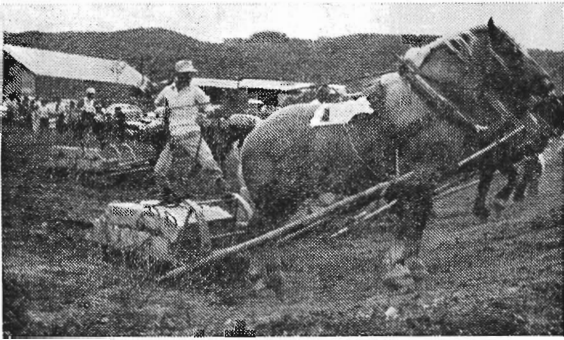


審判部 (池田)



駐車場よりスタート地点 (阿寒)

- 5 競走数 二十二レース
- 6 入場者数 一、五〇〇名
- 7 本会副賞授賞馬 ノブトリヒメ 牝四才鹿毛
- 馬主 阿部孝雄
- 第三十四回阿寒町鞍馬競技大会
- 1 主催 阿寒町馬事振興会
- 阿寒町鞍馬競技実行委員会
- 会長 斎藤六市
- 2 開催日 八月十四日
- 3 場所 同町十七線特設会場
- 4 出走頭数 八十一頭
- 5 競走数 十四レース
- 6 入場者数 一、六〇〇名
- 7 本会副賞授賞馬 力丸 牝五才
- 馬主 橋本君徳



力いっぱい障害越え (阿寒)

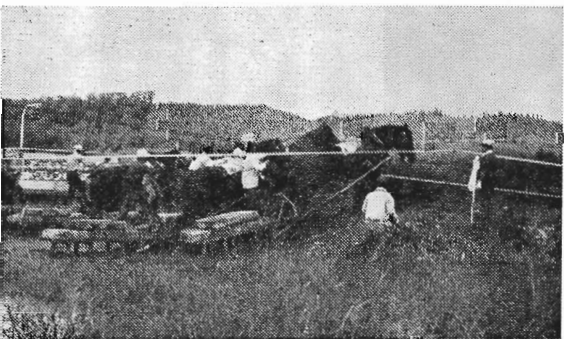


障害前で一息 (阿寒)



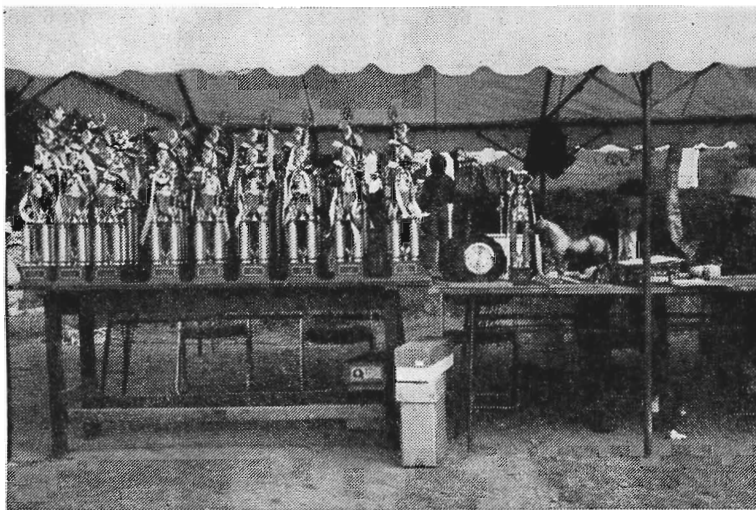
(滝 上)

- 下川町鞍馬競技大会
- 1 主催 下川町馬産改良協議会
- 会長 金子喜代治
- 2 開催日 九月二日
- 3 場所 同町中央橋上流空地
- 4 出走頭数 六十四頭
- 5 競走数 二十七レース
- 6 入場者数 一、〇〇〇名
- 7 本会副賞授賞馬 第2テンタン
- 馬主 小原孝志
- 八才
- 1 主催 愛馬講
- 会長 斎藤忠治
- 2 開催日 九月一日
- 3 場所 同町幸町特設会場

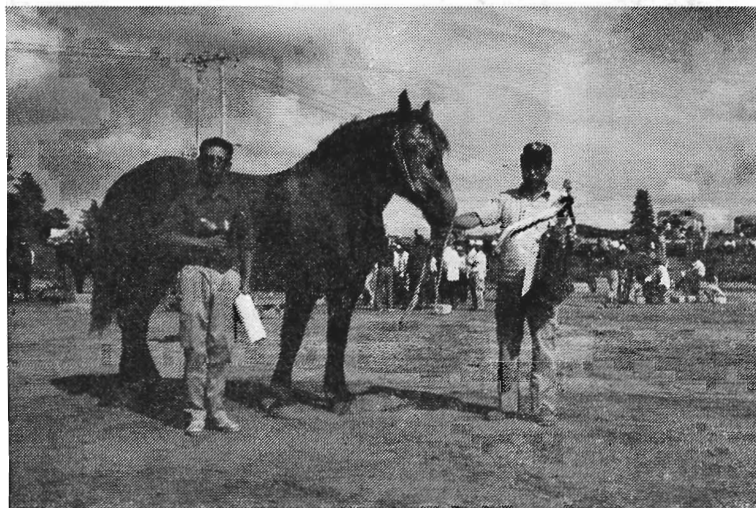


(滝 上)

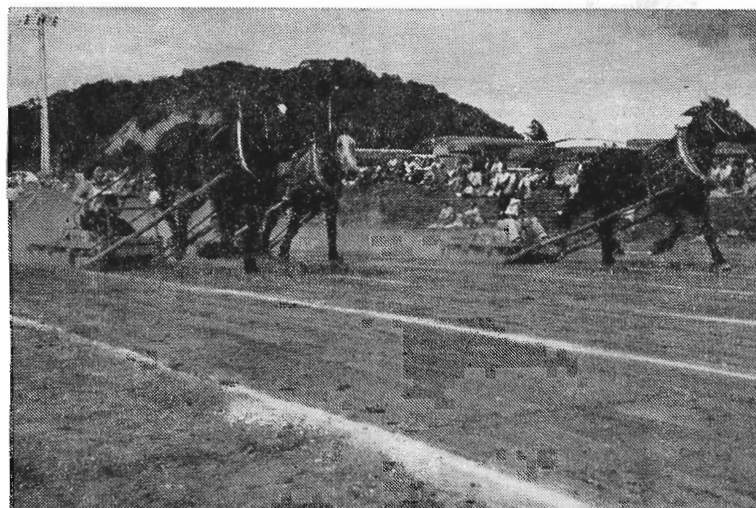
- 4 出走頭数 六十三頭
- 5 競走数 二十五レース
- 6 入場者数 一、〇〇〇人
- 7 本会副賞授賞馬 千代姫 牝五才
- 馬主 秋山喜代治
- 音更町鞍馬競技大会
- 1 主催 音更町東土幌地区連合会
- 秋季祭典鞍曳競馬会
- 会長 思田晴夫
- 2 開催日 九月二日
- 3 場所 同町東土幌神社境内特設会場
- 4 出走頭数 十六頭
- 5 競走数 十レース
- 6 入場者数 五〇〇人
- 7 本会副賞授賞馬 ローシヨイ
- 牡四才



本部席に置かれたトロフィーの数々 (足寄)



市営競馬協議会賞受賞馬 (足寄)



婦人レース (足寄)

馬主 横田 一

第五回弟子屈町鞍馬競技大会

1 主催 弟子屈町馬産振興同志会  
会長 阪口麻一

2 開催日 九月五日

3 場所 同町鞍馬競技場

4 出走頭数 八十一頭

5 競走数 十九レース

6 入場者数 二、〇〇〇人

7 本会副賞受賞馬 イデホーブ  
雄四才鹿毛

馬主 井出清澄

第十一回足寄町鞍馬競技大会

1 主催 足寄町鞍馬大会  
会長 斎藤祐一

2 開催日 九月十五日

3 場所 同町お祭り広場

4 出走頭数 五十五頭

5 競走数 二十六レース

6 入場者数 二、〇〇〇人

7 本会副賞受賞馬 旭紋 牝五才  
馬主 矢吹勝美

馬主 下内秀勝

第四回上士幌町鞍馬協議大会

1 主催 上士幌町鞍馬同好会  
会長 青木弘康

2 開催日 九月二十日

3 場所 同町町民グラウンド

4 競走頭数 六十頭

5 競走数 二十三レース

6 入場者数 五〇〇人

7 本会副賞受賞馬 ネムロリキ  
牝八才

馬主 下内勝

第三回標茶町鞍馬競技大会

1 主催 標茶町馬事振興同志会  
会長 西内 信

2 開催日 九月二十三日

3 場所 標茶集散地家畜市場

4 出走頭数 六十六頭

5 競走数 二十二レース

6 入場者数 一、〇〇〇人

7 本会副賞受賞馬 ネムロリキ  
牝八才



婦人レース入賞者（足寄）



（標 茶）

- 1 佐呂間町競馬競技大会
  - 1 主催 佐呂間町畜産振興会
  - 2 会長 栄 元治
  - 2 開催日 九月二十六日
  - 3 場所 同町農業協同組合畜産センタ
  - 4 競技頭数 五十八頭
  - 5 競走数 二十七レース
  - 6 入場者数 八〇〇人
  - 7 本会副賞受賞馬 福姫 牡二才
- 馬主 榎木慶矩

標茶町競技種目

レース 順序	競 技 種 目	区分	回数	重 量	摘 要
1	町内農耕馬	予選	1	300K	
2	才馬	"	2	200K	
3	才馬	"	2	350K	
4	3流馬	"	2	450K	
5	2流馬	"	2	500K	
6	1流馬	"	2	600K	
7	和種3才馬	決勝	1		
8	和種馬	"	1		
9	トロッターF1	"	1		
10	トロッター	"	1		
11	ポニ	"	1		
12	特流馬	"	1	700K	
13	2才馬	"	1	200K	
14	3才馬	"	1	350K	
15	3流馬	"	1	450K	
16	2流馬	"	1	500K	
17	1流馬	"	1	600K	
18	町内農耕馬	"	1	300K	
19	軽重量馬	"	1	650K	(2流3流)
20	重重量馬	"	1	1,000K	

重量は当日変更する場合があります。

- 標茶町競馬競技大会規定（注意事項）
- 1 出場馬は直ちに馬体審査をうけ、審査長の資格決定を守る事。
  - 2 騎手以外、出走中の馬に近よらぬ事
  - 3 出場馬主、騎手は役員への指示に従う事。
  - 4 競技中故意に他の馬の進路妨害をしてはならない。
  - 5 競技中は騎手、役員以外のコース内立入を禁ずる。
  - 6 競技参加料は三、〇〇〇円とする。馬そりの破損事故の場合は競技を一時停止することがある。
  - 7 競技中、騎手の交替は認めない。
  - 8 競技中は故意にそりから騎手が降りる事は認めない。
  - 9 積載量は主催者の指示に従うこと。
  - 10 勝敗の順位は審判長の決定にしたがい異議の申し立てをしないものとする。……以下略
  - 11 上士幌町競馬規則
  - 1 コースは抽せんにより決める。
  - 2 赤旗をおろしてスタート、白旗左右はフェールとする。
  - 3 スタートから第一障害までは責任コースを走ること。
  - 4 第一障害を越してから他の走馬に妨害行為をしてはならない。
  - 5 レース中の騎手の変更は認めない。
  - 6 手綱のタグリ追込以外は認めない。
  - 7 ゴールは曳抜きとする。
  - 8 レース中、騎手が故意にソリから下りてはならない。



# 78馬の祭典

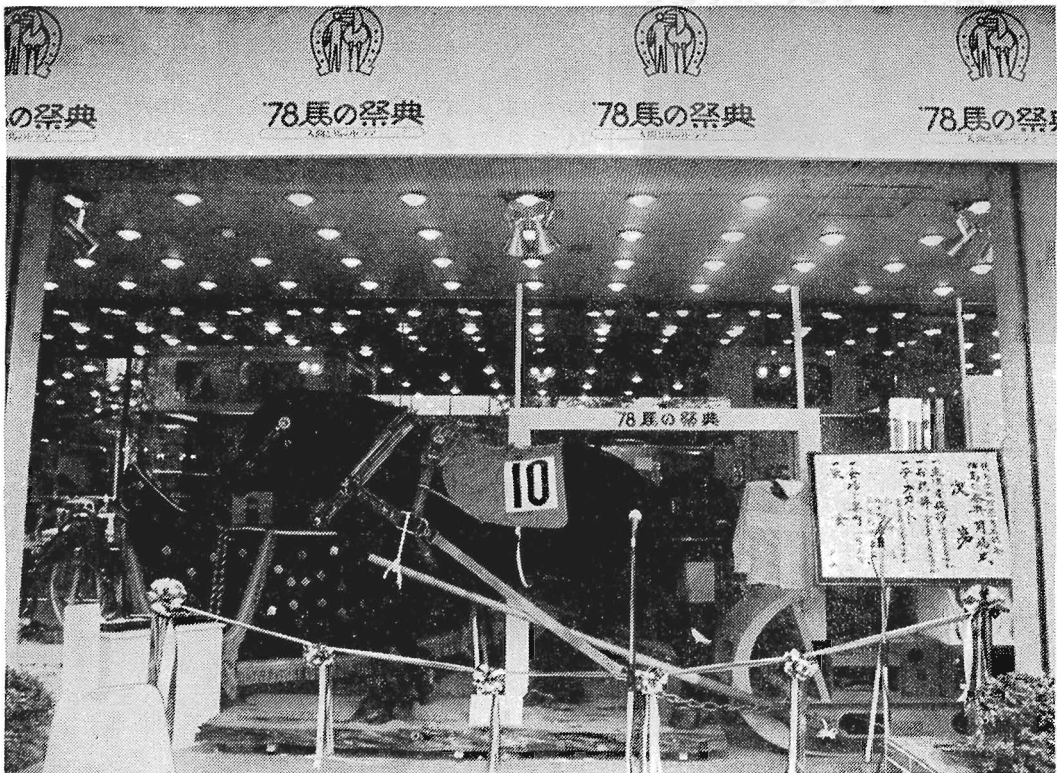
## 馬と人間のドラマ

馬の民芸品から近代競馬までの「馬の百科展」——『78馬の祭典』が十月三日から八日まで札幌の三越デパートで開かれた。同展は地方競馬全国協会をはじめ道、旭川、岩見沢、帯広、北見各市など道営競馬、ばんえい競馬の関係自治体が主催で、競馬法施行三十周年の記念事業の一環として行われたもの。

会場には全国の馬の民芸品と工芸品、五〇〇勝を達成した佐々木竹見騎手の愛用品や道営の花形ジョッキードット故千島騎手の遺品、馬の切手コレクション、馬を主役にした全国の祭りのパネル、馬のルーツから競馬のABCなど馬に関する展示品がいっぱい。また、内田靖夫氏の「馬の色紙実演チャリティ」、女性騎手土屋薫さんのサイン会なども行われた。中古蹄鉄の販売も行われ「馬は絶対に人を踏まないから、交通安全のマシナイになる」として喜ばれた。

一階のデパート入口にはベルシュロン種のはく製が置かれ好評を博した。この馬はアキタハヤト号（雄九才）で、三才時よりばんえい競馬で活躍していたが、一〇五〇キロという体重が災いしてか、この夏蹄葉炎にかかりやむなく薬殺されたもので、その後馬主さん達がはく製業城戸峯雄さんに依頼し出来上がったもの。競走用具をつけ、北見から運んだ本番用のそりを引くその姿は、道行く人々の目をひきつけていた。

また、その隣に置いてあるテレビではこの夏行われた岩見沢のばんえい競馬の



レースをビデオテープで流し、昼食時や会社の引け時には、サラリーマンなどで

黒山の人だかりができるほど。

アキタハヤト号のはく製



ばんえい調教師中村清信氏提供の優勝メダル



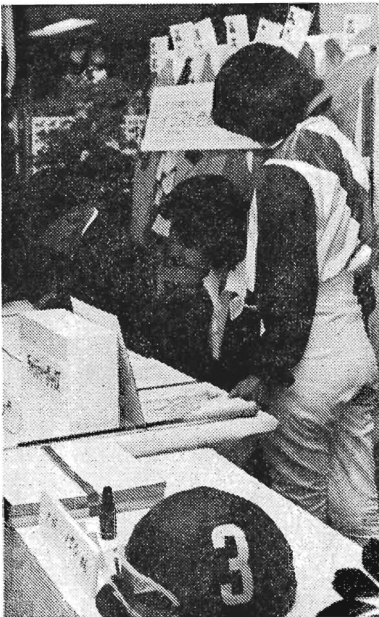
テープカット左より三越支店長、全公営山田局長、地全協原口理事、道営競馬宮森所長



ばんえい競馬のビデオテープを見る人達



馬に関する民芸品の数々



色紙を書く内田氏と立っているのは浦和競馬の女性騎手土屋薫さん



札幌市内を潤歩した馬車

# 私のばんえい人生

北海道ばんえい競馬

馬主会々長 松浦慶三

人と馬とのふれあいも苦楽の歴史は長いが、私の今日迄の苦い、そして楽しい思い出も多くある。六、七才頃私の家は、野菜作りの貧しい農家でした。役馬も四尺七寸位の道産子まじりの小さな馬で、秋には毎日金輪の荷馬車に六、七〇東のダイコンを積んで街へ売りに行くのですが、畑の坂道をなかなか登れず、母と兄弟とで後荷を押上げてやりました。

その坂道が苦勞の種で、その為私の母親は腰を病み床につき、私が十二才の春に病死した。子供心に父親が大きな強い馬を飼っていたら、母親も長生き出来たものをと、うらめしく思い心を痛めた時代であった。

青年時代私は、当時半農半畜に営農を切り替えていった実家で、冬期間は山仕事に精を出し造材運搬で馬車馬を使うようになつた。その頃の馬に対する考え方として、ベルシュロン種は、力が強く坂道や重い荷の時はよいが、長道や急ぐ荷の運搬には不向きで、ノルマン種、中間種は足は速いが、大きな荷は動かさない不向きがあり、従って中半血種の少々太目の馬を使うように心掛けた。

その当時秋の馬市場より二、三頭買い

入れ、父子で良く育成して運搬馬として使った。元旭川市長五十嵐広三氏のご尊父五十嵐栄三郎氏が当時旭川市内で運搬部を作り、強い馬車馬を十数頭使っていたし、上川管内でも強い馬を買い入れるので有名であった。昭和一七年頃、私の家の良く出来た五才馬が八〇〇円で売れたことは当時、自慢の種であった。

終戦後昭和二三年に独立した私は、生産牧場を志しながら、旭川市の中心街に卸販売業の間屋を中心に店舗を持ち、食糧難の時代で、仕入れさえすればいくらでも売れたので、郡部等又は旭川市郊外へ良く肉畜の買出しを行った。

ある年の二月頃、たまたまある馬喰うの家にいったところ、馬商いの決め酒でもあったのであろうが、十数人の馬関係者が集まり酒を飲んでた。私が玄関を入ると、その家の主人は若い私の顔を見るなり、「一流の馬喰うの家には肉馬などない、肉馬を買うなら三流の馬喰うか肉馬馬喰うを相手にしろ」と大声でどなられ、玄関払いをされた。私は職業的にコンプレックスを感じ、涙が出て非常に悔しい思いをした。その時私は、立派な

ばんえい馬を育成して生意気な馬喰うを見返し、自分の職業安定を計ろうと決心したものであった。これが私のばんえい競馬馬主のスタートである。

元来私は畜産家育ちのせいか、都会生活よりも生産牧場の環境の方が好きで、土地を買収して牧場を作り、畜舎の増築を計るなどして、家畜の多頭教育成計画を進めるようになった。

昭和二七年頃、夏の二才馬市場が宗谷線より北上し、稚内方面から南下、そして北見、十勝へと開かれて行った。私は何十頭かの二才馬を買い付け、そのうちばんえい向きの馬を自分の牧場で育成しばんえい競馬に出場させた。当時は賞金も安く、調教料、騎手料を払うと、秋の競馬終了後には一銭も残らなかった。自分のPRとばんえい関係者への奉仕事業との感が強かった。

昭和三十年の九月中旬、岩見沢の祭りに行った時、私も岩見沢競馬へ自分の馬を出していたので、ばんえい競馬を見に行った。私の三才馬がビリになった為に次の日の優勝レースに騎乗する騎手がなく、関係者の許可を得て自分で騎乗したところ、当時のレコードで優勝してしまつた。その後も旭川などで数回一着を取り、特別、優勝した思い出がある。私の父がまだ在世中で、ネクタイを締めた商人でありながら不届きだ。今後も騎乗騎手をするのなら、商店経営をやめるべきだと戒められた思い出がある。私は自分の馬が優勝して帰って来た時

の馬の目にも何物にも替え難い魅力を感じる。この目を見るためにはどのような苦勞も忘れることができるのが馬主だろうと思う。

馬主にとつても勝負の世界はきびしく、馬の選定については大いに心をくばる。血統的に実績があり、雄大な馬格をもち、勝負根性のしつかりした強い馬を得るのは非常にむずかしいが、それを得た時の喜びは馬主のみが楽しめる最高のスポーツであろうと思う。

今日ばんえいの馬主調騎の団体が年間十数億円の経済支給を受け、ファンも年々増大する中で平地競馬にも追いつく売り上げを伸ばして発展していることは、我々馬主としても幸せな思いである。

私なりの放言として期待したいのは、今日の近代社会の産業の中でのスポーツ、レクリエーション、レジャー産業は色々あるが、ばんえい競馬も主権者を一本化するなどして近代化、合理化を計り、また冬期開催も含み室内ばんえい競馬場を設立し、年間二〇〇日位の開催ができれば北海道ばんえい競馬が、世界でただ一つの特徴ある競馬として大きく発展を見たと共に、ばんえい競馬事業の経済成長も大きく、競馬ファンの増大と併せて北海道馬産振興に大きく歴史が塗り変えられると思うのである。

ばんえい競馬が主権者、関係者が一体となって研究と努力を重ね益々ばんえい競馬の真髄を追求し、日本一のばんえい競馬として発展するよう願う者である。

# 基礎研修を

## ふりかえって

北見市塚本敏一

私が新人職員基礎研修を受講するため、栃木県の地方競馬全国協会騎手教養所へ約一カ月間お世話になったのは、昭和五十二年の十月の末であった。初め一カ月間という長期間に不安を抱き、また、他の人々からその内容と過酷さを聞かされ、恐怖感を持ちながら入所した。

基礎研修の目的は、専門職員として仕事に携わっている人達が、教えられる立場を早急に教える立場、指導監督する立場にさせ、かつ、競馬の公正な運営のために行われているものであるが、(すなわち、北海道のばんえい競馬担当者である私にとっては、平地競馬について当然無知である)、とにかく、馬に馴れること、馬に乗れるようになること、また、全国各地から集まって来た同年代の仲間とともに、一カ月間におよぶ共同生活の中で、各競馬場の長所短所について話し合い、自分の競馬場をベターに知りえるのに、また、各人親睦を深める上でも大変よいチャンスであったと思っている。

毎日騎手候補生と同じような日課を消化していたが、乗馬訓練ほどつらく思われたものはなかった。教官の方々も私達

している馬を見てみると、おとなしい性格のものばかりに見えてきたのは、自分の騎乗技術の未熟さに対するひがみであったのであろうか……。

研修生が一カ月間にどれだけ進歩するか、その程にはあまり期待もかけてなかったと思うのだが……。馬の背に騎乗して、まずその高さにおののいた。とにかく、地上から見ているのと馬上から見ているのではこんなに違うものかと思っただ。ぎよ法動作を上手に馬に伝えられなかったために、自分が前進させようとして足で馬の内腹を蹴っても、恐怖感から(突然走り出して押さえ切れなくなったりどうしよう。)、手綱を引いていて……。

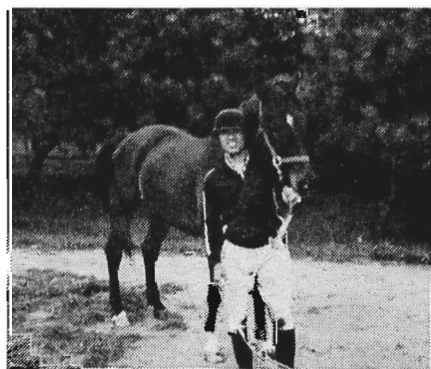
というちぐはぐな動作が目立った。こんな毎日の繰り返しで四〜五日後には、両ヒザの内側とお尻の皮がむけてしまい、風呂にも満足に入浴できず、いたるところカットパンだらけになり、なんとも痛々しいかぎりであった。

ともかく、日ごろの運動不足のせいで、固まってしまった体にムチ打ち、努力したつもりであったけれど、初めての経験であり、騎乗した時のあの恐怖感を取り去ることができなく、落馬十回という研修生仲間いちの不名誉な記録をつくってしまったのは、今だに残念でしかたがない。ぐちになるが、他の研修生達の騎乗

騎手候補生達は、一年半もの長い間、

このきびしい試験に耐えて騎手として巣立って行くのだが、中学校を卒業したばかりの、まだ子供ほさが残っている彼等達にとっては、きびしすぎる現実から逃避したがる日々もあるだろうが、しかしそこは各個人の忍耐、努力で、プロフェッショナルとしての自覚を持ち、練習に励んでもらいたい。全国各地からそのような少年達を預かっている騎手教養所の教官達にとっても、毎日厳しい訓練の合間に、何か彼等の張りつめた気持を柔らげる行事、催しを考え出すことに苦慮していることでしょう。そんな行事の一環として、十一月九日に大運動会が催された。私達研修生も飛び入り参加させてもらったが、騎手候補生達の顔々にも普段の厳しい表情から開放され、あどけない顔にも笑みももどっていた。十六種目の競技に若者達は、精一杯の力を出しきって取り組んでいたの思い出される。

一カ月間の研修を無事消化して、とにかく、私達にとって、健康的生活を思い出させ、かつ、競馬専門職員としての自覚を持たせてくれたことから、この研修の目的、すなわち、地方競馬の公正かつ円滑な運営に資するため各主催者の新人職員を早急に養成することは達せられたと思っている。馬術に関して、ズブの素



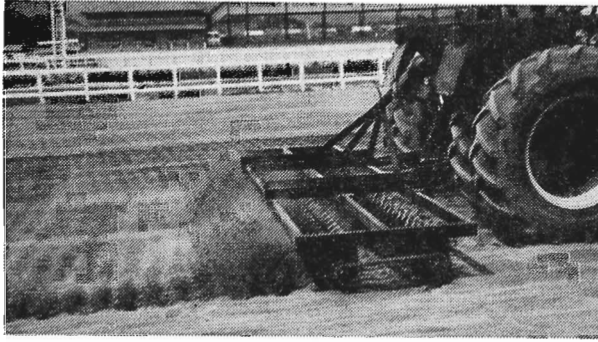
人が馬を上手にまでいれないが、自分の意志通りに動かすことができるようになった。しかし、教官の号令を馬が理解していて、それにつれて馬自身で動いていたのかもしれないが。(自分では意志通りに動いたと思っっている。)

現在の地方競馬運営体制の実態は主催者がまちまちであるため、一体化することが困難であり、また、職場内での移動があるので、なかなか専門職員の養成が難しい。私もそのような環境の中で仕事をしているのだが、この後何年競馬事業系の椅子に座っていられるかわからないが、この若いエネルギーをぶっつけていきたい。

最後に私と一緒に全国からこの研修を受講するため、集まって来た七人の研修生達の今後の活躍を期待します。



# 競走用具と機械の研究



試作一号機：掘り返す深度が浅く整地不完全

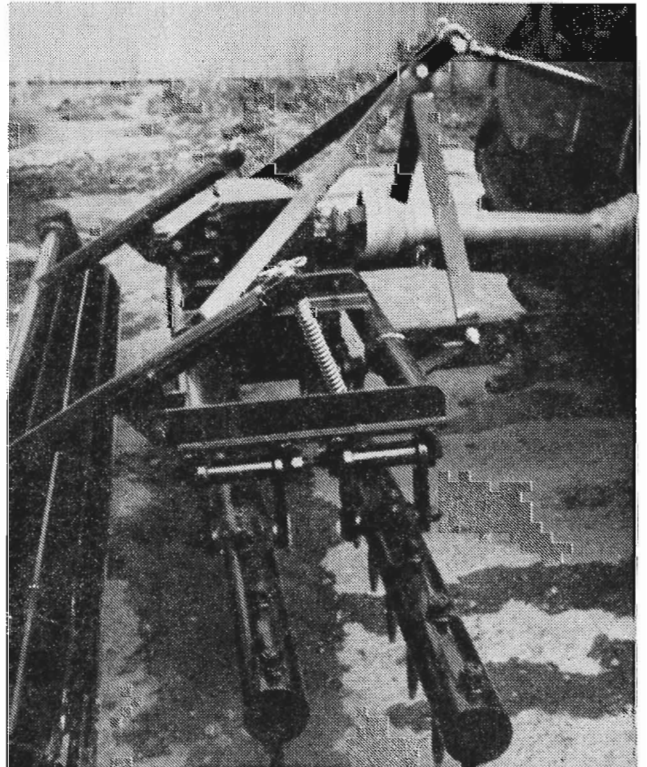
走路整地用ワイドハローの採用  
 ばんえい競走の走路は、セバレットコースのため、走路整地に関して各コース均等な整地が行われるよう配慮している。前年まで使用していた爪ハローの問題点を解消すべく、関係者で討議、実験の結果「相互横動式ワイドハロー」を正式に採用を決定した。

これは、全幅三九四〇ミリメートルの爪ハロー二基を間隔二八〇ミリに配置し、相互に横動（振幅九ミリ）しながら整地するものである。

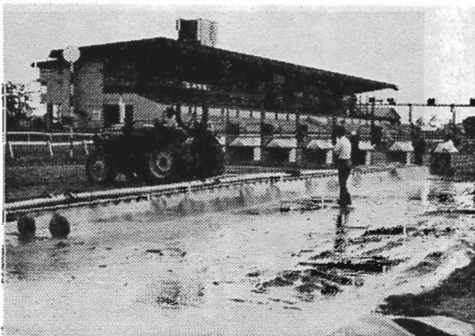
これにより、競走による蹄跡、蹠跡、トラクターの轍の消滅及びその押圧部の攪拌整地を可能にした。

走路撒水機の採用  
 馬場水分が概ね〇・五%以下になると競走に伴い、ほこりが舞い上がり、決勝判定に支障をきたす恐れがあるので、従来、ゴール前二十メートル位から、撒水車による撒水を行ってきたが、本会岩崎技師を中心とした関係者の研究により撒水機を開発し、この度、採用を決定した。

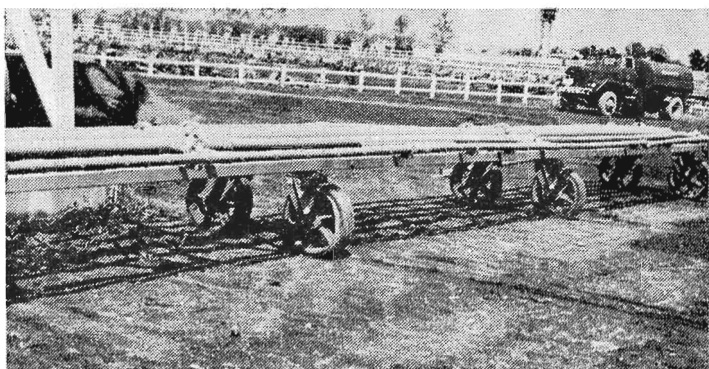
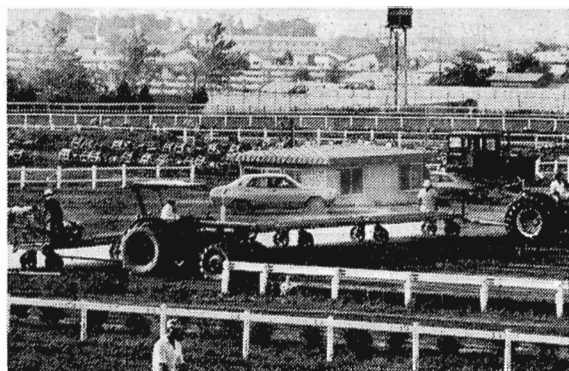
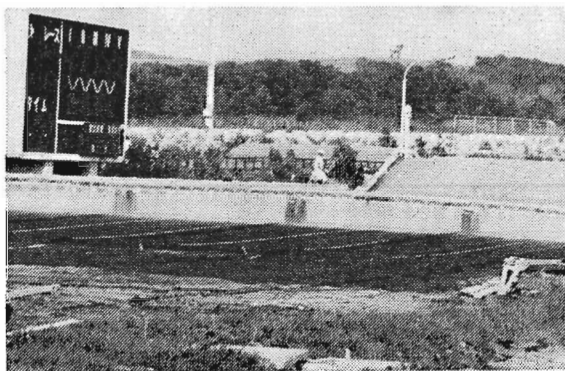
なお、五十四年度の開催については、ゴール前の撒水、及び競走中の砂塵防止対策として第二障害手前の撒水を行ない、全走路撒水については、四主催市の意見の統一及びコアンへの啓蒙等を行ない、当面は実施しない方針である。



試体二号機：後部ロータリーを外して完成した



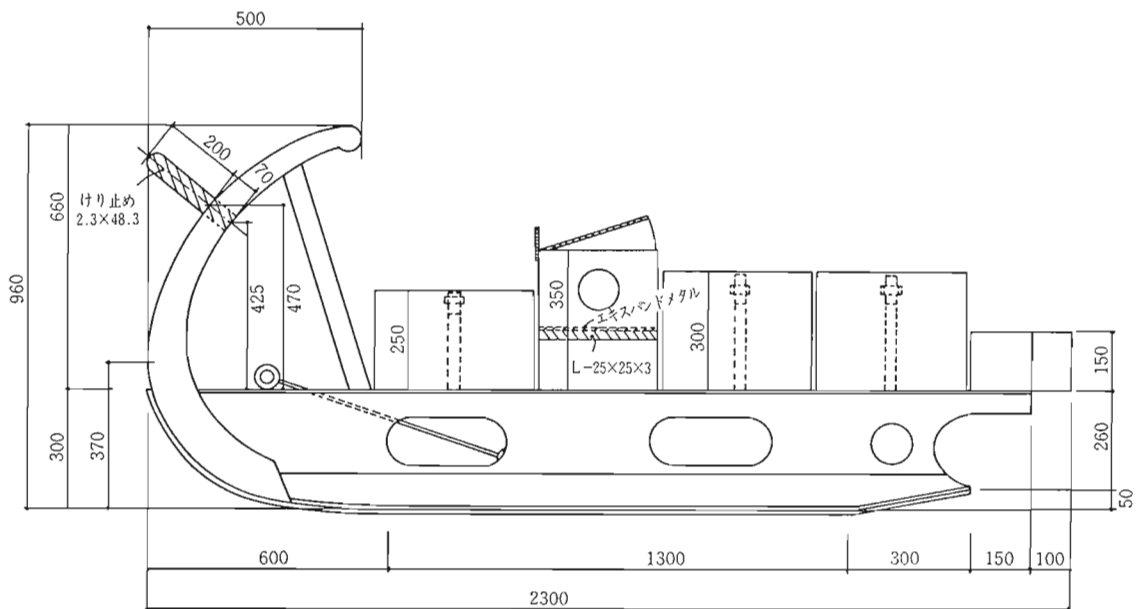
試験中の撒水機



蹴り止めの取り付け

八月十九日第四回岩見沢競馬初日の第五レース、アキホープ号に騎乗した前原和信騎手は、スタート直後、自分の馬に顔面を蹴られ、右目を失明する重傷を負った。

また、五十一年度には林騎手（現調教師）が第二障害で腹部を蹴られ、腎臓を損傷する重傷を負う事故があった。今後このような事故を防止するために、楯の前面に蹴り止めを取り付けることにした。



尺度 1 : 10

昭和53年度

馬産奨励に関する生産者賞種雄馬管理者賞受賞者名簿

受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞			賞金額 万円	交付方法	
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日			
原田 純吉	鉄 鯉	ヒメテツリ	鉄 姫	50. 4. 2				81	豊頃農協経由	
		ロイヤルセーコ	聖王	4.18						
		テツイサミ	鉄花	4.11						
		クインエリザベス	第1優報	4.19						
		センシヨウ	福一	4.30						
		キヨタカラ	晏露の九	5. 3						
		カチミノル	豊勝	4.29						
		タカラテツ	松勝	4.15						
		キングテンリュウ	鉄力	4.28						
		フクアラシ	第二鉄鯉	4.22						
		ホワイトリュウ	豊勝	5.12						
		ハナノリュウ	秀風	5.13						
		キクノプリンス	キノプリンス	5.15						
		タカラザン	鉄竜	4. 1						
		タワイサミ	秀鯉	6. 4						
		レップーメリー	鉄勇	5.10						
		ヤヨイ	姫桜	4.26						
		アポロイチ	鉄雄	3.28						
		テツハル	ソフラー	5.10						
		ダイリュウ	大十勝	5. 4						
ユウコウ	大十勝	5. 6								
シホロコマ	鉄波	5.10								
キャロリー	金雄	5.15								
シゲリキ	春駒	4.10								
スターキング	第二つり	4.30								
クレジシーザー	十勝鉄鯉	4.25								
テツバイ	第二梅	3.28								
福原 貫一				センシヨウ	福一	50. 4.30	5			
武内 昭三				キヨタカラ(牝)	晏露の九	5. 3	7			
門 寿雄				カチミノル	豊勝	4.29	5			
松本 松治				タカラテツ	松勝	4.15	5			
宮本 竹一				フクアラシ	第二鉄鯉	4.22	5			
岡光 軍次				ホワイトリュウ	豊勝	5.12	5			
梶 己之助				ハナノリュウ	秀風	5.13	5			
桜沢 敬司				タワイサミ	秀鯉	6. 4	5			
松崎 和身				ヤヨイ(牝)	姫桜	4.26	2	125		
鈴木 栄	パトリンヤ	タツリュウ	デオンパトリ			4. 7	3	士幌農協経由		
南部 文夫	ダンデイ	センポイント ヤマサラッキー ダンデーホマレ グランドマーチン ダンディトコー	晏勝 勝雄 五月の二 朝勝 光青	5.20 5.10 5. 6 5.10 4.11			15	本別農協経由		
今野 忠志				センポイント	晏勝	5.20	5			
河原 清				ヤマトエイユウ	オテ雄	4.16	5			
大和田 実				ヤマサラッキー	勝雄	5.10	5	30		
田村 勝	晏 栄	ドラゴンダッシュ キタコマ ダイセイコー	ジャンボ勲 勝山 第二勝栄	3.28 4.20 4.21				音更農協経由		

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞				生 産 者 賞			賞金額 万円	交付方法	
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日			
田村 勝	晏 榮	キタノボーイ カールグラス (牝)キングヒメ (牝)マンタレント キタバヤマ	初 駒 蘭 榮 晏 晏 晏 流 晏 晏 天	50. 4.15 4.10 4.10 3.26 6. 1				24	音更農協経由	
音更町農協	エドガー	マサキオーザ	ガレッサー	4.26				3		
高山 稔					マサユキ	宝	50. 5. 5	5		
村上 福太郎					ドラゴンダッシュ ダイセイコー	ジャンボ勲 第二勝栄	3.28 4.21	10		42
高山 久男					コタンリュウ	隼	4.30	5	木野農協経由	
天野 松 信	バビヨン	コタンリュウ	隼	4.30				3	8	
幕別町農協	バンコ	カミリュウ	英 盤	4. 8				3	幕別農協経由	
村田 義雄	久 都	ヨウザン キタノオーカン ホッカイオー イチマツ スピードリュウ トーヨウホウシン	羊羽鷹 朝 日 都 栄 都 都 桜 秋 宝 進	4.21 5. 4 5.30 5.15 4.18 5.15				18	54	
玉置 清	ウルバン	ホッカイクイン アサヒフジ	清 山 光 栄	4.13 4.28				6		
近石 秀雄					カミリュウ	英 盤	4. 8	5		
妹尾 良男					ヨウザン	羊羽鷹	4.21	5		
近石 義雄					キクノプリンス	キクノプリンス	5.15	5		
青木 金之					キタノオーカン	朝 日	5. 4	5		
笠間 貞雄					タカラザン	鉄 竜	4. 1	5		
国枝 光明					ホッカイクイン(牝)	清 山	4.13	2		
二瓶 長松					ロイヤルセイコ(牝)	聖 王	4.18	7		札内農協経由
二瓶 義春					クインエリザベス(牝)	第一優報	4.19	7		14
蓑野 恒雄	ドウウッドウユウ	キヨハク トキトップ	楽 武 晏 琉の一	5. 5 4.24				6		浦幌農協経由 6
滝田 辰雄	エレガン	バンフドウ ヨシカツ	高 藤 鈴 春	5. 7 4.20				6		足寄農協経由
只野 幸一	カボラール	カボホマレ	カボ誉	4. 9				3		
野口 正雄	ナオス雄	サワノチカラ タカラヤマ タカラオンリー ナオストップ ヤクモタイシ	幸 風 大 進 朝 風 ナオストップ ナオス姫	4.30 4.15 4.25 4.10 4.26				15		
加藤 茂					サワノチカラ	幸 風	4.30	5		
相沢 喜典					ヤクモタイシ(牝)	ナオス姫	4.26	7		
須藤 十作					バンフドウ	高 藤	5. 7	5		
石井 忠利					カボホマレ(牝)	カボ誉	4. 9	2	43	
北村 鉄太郎	キブロク	キンリュウ アサカゼ ハクシンセイ	第二十コール 朝 勝 キブ雄	4.25 4.20 5.17				9	池田農協経由 9	



受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞				生 産 者 賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
高島農協	第三オデオン	ミスターローリ ヤマトエイユウ	豊雄 オテ雄	50. 5.20 4.16				6	十勝高島協 經由 6
岩佐丁三					ヒメテツリ(牝)	鉄 姫	50. 4. 2	7	十勝利別農協 經由 17
木戸利夫					キンリュウ	第二十七コール	4.25	5	
中村米良					キングテンリュウ	鉄 力	4.28	5	
山下多次郎	郎 夕	ダイニロウユウ アサヒチカラ	郎 松 ヒロキ	5. 5 4. 1				6	直接個人へ
鳥本金松					ダイニロウユウ	郎 松	5. 5	5	〃
千葉久信					テツイサミ	鉄 花	4.11	5	〃
深川繁信					キングヒメ(牝)	栄 晏	4.10	2	〃
上士幌町農協	ボヌール	アマクサ タマノアラシ	昭 滝 玉 錦	4.25 5.10				6	上士幌農協 經由 6
安瀬輝男	大 雄	イコイ ヨコズナオー	雄 茂 雄 光	4.22 5.10				6	釧路農協連 經由
萱沼 誠	昇 竜	カヤチカラ キンダイ	昇 進 竜	5. 6 4.28				6	
松野 宏	フラトウール	シラナミ ホシイチ	昭 姫 第2トクイチ	1.28 4.20				6	
砂金良治	ヴォールル	リュウドウ トキノロブスト イデニシキ	蘭 盛 月 輝 クラウン	4.25 5.13 4.10				9	
梶原隆二	ケルエクラ	フジノポリ	春 風	4.17				3	
赤羽根 右エ門	第17オートリ	トカチオートリ	第二松竜	4.12				3	
長村 豊司	二世ロッシーニ	ムツコマ アサヒホマレ ムツイサム	春 盛 力 丸 雪 勝	5.25 5. 6 5.23				9	
中西石松	虹 裁	ブラザ	虹 月	5.25				3	
高谷鉄造	丹 生	サンダイユウ	釧 山	5.15				3	
釧路農協連	銅 柑	アイシングラス	仙 宝	6. 4				3	
大久保 芳信	豊 田	ヨシミノル ヨシヒメザクラ トキノジンドン	鈴 姫 芳 桜 宝 竜	2.12 5. 4 4.29				9	
斎藤六市					ムツコマ	春 盛	5.25	5	
橋本君徳					アサヒホマレ	力 丸	5. 6	5	
白崎吉太郎					フジノポリ	春 風	4.17	5	
遠藤勇雄					リュウドウ	蘭 盛	4.25	5	
竹田 勇					トキノロブスト	月 輝	5.13	5	
松野 宏					シラナミ(牝)	昭 姫	1.28	7	
伊藤茂八					イコイ	雄 茂	4.22	5	
萱沼 誠					カヤチカラ	昇 進	5. 6	5	
安宅岩男					キンダイ	竜	4.28	5	

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞				生 産 者 賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
太田家光					ブラザ	虹月	50.5.25	5	釧路農協連 由 117
高谷鉄造					サンダイユ	釧山	5.15	5	
虻田町農協	第二ロッシーニ	バンコウハク ハルミヒメ ホクリュウケン アズマコマ イワテシンザン ハヤカブト	太郎 ロッシーニヒメ 栄 勇泉 第三朝日 千島	50.4.15 3.25 4.21 4.10 4.10 4.1				18	虻田町農協 由
立谷貢					マルタツトップ	新竜	4.5	5	
遊佐喜一					ハルミヒメ(牝)	ロッシーニヒメ	3.25	7	30
樫野元一	産日	カワアラシ ナガレボン	千日 王の竜	4.22 4.9				6	日高農協 由
小坂橋議					カワアラシ	千日	4.22	5	
森秀夫	コレッシー エンタープライズ	イブリコマ マルモフジ	藤太郎 運山	4.15 4.21				6	牡警農協 由 6
三上秀雄	輝彦	ヒカルキング ホースジャガー ブラックバト	豊風 盛姫 テツヒメ	3.26 4.20 4.7				9	穂別農協 由
種田勝之進					ヒカルキング	豊風	3.26	5	
橋本善吉	マルゼン ストロングホース	マルトホープ	マルトホープ	5.20				3	早來農協 由
遠藤久夫					マルトホープ	マルトホープ	5.20	5	
泉勇蔵	第一桜	タカイチ トヨ	第一高姫 進力	5.22 5.3				6	留萌市農協 由 6
天塩酪農協	二世ユールガット	キタノマツカセ デンオコマ ゴトーホマレ	若の花 駒桜 ユールガット三世	4.24 4.13 5.16				9	天塩酪農協 由 9
内藤善弘	第十ノマード	キタノタンセイ	キタノウヅ	4.28				3	蘭越農協 由 3
島口久雄					ハヤカブト	千島	4.1	5	直接個人へ
坂本義雄					バンコウハク	太郎	4.15	5	〃
半田吉雄					キタノタンセイ	キタノウヅ	4.28	5	〃
三浦忠一					タカイチ	第1高姫	5.22	5	〃
千貝義雄	安栄	ヤマトムサン	北星山	4.20				3	〃
森四郎道	連航	トキノパーシャ サクラテンリュウ	大鵬 春風	4.27 51.1.30				6	〃
沢口敏夫	詠春	サワラタカラ マルイチ	幸風 初勇	3.27 4.2				6	〃
桑名英省	千竜	マルタツトップ	新竜	4.5				3	〃
片田住雄	オデコマ	モリホープ	タカラホープ	5.10				3	〃
久保幸治					トキノパーシャ	大鵬	4.27	5	〃
幸田輝雄					サワラタカラ	幸風	3.27	5	〃
佐々木勇次郎					サクラテンリュウ	春風	1.30	5	〃
山田哲					モリホープ	タカラホープ	5.10	5	〃

受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
四栗 栄	2世ロッシーニ	ハヤホマレ タカラハヤブサ アグネスラム ノポリホマレ ナガタトップ アサヒイサミ アグネスシマイ キタノサブロー サロマイチ	勝春 50. 5. 7 耳白 4.10 第2アグネス 4.23 能取駒 4. 2 宝来 5.26 金貴 4.30 ミスンゲン 4.30 嶺大 4. 8 宝龍 4. 5					27	直接本人へ
衣笠 義雄	アプレス	タカミハル ヤカタフジ バンライジン ヤマトキング サブライヤー クリヒカリ ペニアラン	第5三春 4.16 第3ブルターニ 4.15 アブ竜 3.30 大成駒 4.15 大初勝 4.20 勝姫 4.10 桜錦 4.12					21	"
"	カプリシュー	アサヒマル	北力 4.11					3	"
三浦 勇	豊盃	ムツノベア ヒカルエイト サクラフブキ ミストコロ コマキング	竜宝 4.28 豊勝 4. 7 一姫 4. 1 宝花 4. 1 秀盃 4.20					15	"
松田 隆三	楓朝	ハクバノオーザ カツホマレ トカチノボル サカエトーコ フジノタカラヒメ オーバン バンタイホウ ホワイトテンリュウ マジノランサー カツラシュウホウ スプリンター タマカエデ ミチトシ カエデヒメ ハイテンリュウ	日光 5. 4 郎山の 5.15 貴風の 5. 3 豊花 4. 3 王の風 4. 3 第2姫 5.19 ダイチシゲン 5. 4 天龍 4.15 春勇 5.25 珠朝 4. 6 豊楓 4.21 玉楓 4.25 紋楓 5.14 錦勝 5. 3 松栄 4.25 松栄 5.19					45	"
畠沢 義雄	知染	レイホー ツルダトップ アラスカ	第四強誠 4.20 麒麟児 3.17 錦染 4. 6					9	"
中川 正三	宝嘉	アキホープ ブルーカップ	宝鈴 4. 1 藤金 4.10					6	"
久保 豊	清海	タカマサル	清海 4.20					3	"
藤本 芳郎	ベルボンシエー	アカボンシー	アカボンシー 4.20					3	"
岡村 稔	キナール	オノショウ サンゴール	勝駒 4.25 春駒 4.24					6	"
池 和夫	得良	タキノリュウ	滝美 4.13					3	"
川瀬 芳雄				ハヤホマレ	勝春 50. 5. 7	5	"		
今泉 豊治				タカラハヤブサ	耳白 4.10	5	"		
大野 正助				ノポリホマレ	能取駒 4. 2	5	"		
高島 勝男				ナガタトップ	宝来 5.26	5	"		
前田 一郎				アサヒイサミ	金貴 4.30	5	"		
萩原 和幸				ムツノベア	竜宝 4.28	5	"		
今泉 隆司				サクラフブキ(牝)	一姫 4. 1	7	"		

受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
高野 国一					ハクバノオーザ	日光	50.5.4	5	直接本人へ
橋本 与次郎					アグネスラム(牝)	第2アグネス	4.23	7	"
中山 義雄					タカマサル	清海	4.20	5	"
木内 正武					カツホマレ(牝)	朗山	5.15	7	"
藤枝 勝行					ヤマトヒメ(牝)	ほまれ	5.5	7	"
笹崎 義雄					トカチノボル	貴の花	5.3	5	"
高橋 章					サカエトーコ	豊風	4.3	5	"
野田 寿元					オノショウ	勝駒	4.25	5	"
荒井 幹夫					ヒカルエイト	豊勝	4.7	5	"
杉本 吉男					アキホーブ	宝鈴	4.1	5	"
高木 幸雄					キタノセイコ	勇幸	4.30	5	"
橋本 与次郎					アグネスシマイ(牝)	ミスシンザン	4.30	2	"
安田 満雄					フジノタカラビメ(牝)	玉ノ姫	5.19	2	"
松原 豊					ミストコロ(牝)	宝花	4.1	2	"
小松田 繁	栄協	キタノセイコ	勇幸	50.4.30				3	"
及川 章	栄勝	モコトシンザン	北風	3.22				3	"
佐藤 守蔵	鵬雄	ウメノジョー	金梅	5.10				3	"
浜田 勘治	幸太郎	マサルコマ ソラチニシキ	初駒 花	5.10 5.7				6	"
山内 喜一					ヤマトムサン	北星山	4.20	5	"
菅井 信夫					ウメノジョー(牝)	金梅	5.10	2	"
雄信内農協	第二ナオス	インノチカラ ヤマトヒメ	北風 ほまれ	3.7 5.5				6	雄信内農協
工藤 馨	竜松	トキノエイユウ	竜王	5.5				3	直接本人へ
加藤 鶴雄	玉根	ネムロボーイ	竜王	5.22				3	
阿部 正義	第1ニジェリア	キタヒカリ ヤマブキ ライカー	宝飛 大照 花	4.15 5.10				9	
立石 貢	定原	ソラチノボルコマ	定春	4.10				3	
工藤 馨					トキノエイユウ	竜王	5.5	5	
白崎 達夫					キタヒカリ	宝飛	4.15	5	28
半谷 良松	第二オデオン	カイリキ アップールーサ シャチホコ	桜水 北竜 竜	5.16 5.1 5.1				9	陸別農協経由
水間 松男					カイリキ	桜水	5.16	5	14
伊藤 庄五郎					ライカー	照花	5.6	5	直接本人へ
山岸 昇					キタコマ	勝山	4.20	5	"
山中 勝一					コマカブト	朝日桜	4.26	5	"



受賞者名	種雄馬管理者賞				生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名	生年月日	出走馬名	血統馬名	生年月日		
飯田 貢					トカチヒメ(牝)	銅 宝	50. 4.25	2	直接本人へ
岡田 耕治	丹 朝	コマカブト アサノブ	朝日桜 朝 信	50. 4.26 4. 6				6	"
伊藤 鉄雄	盛 幸	ハウザンリュウ	宝 山	4.28				3	"

馬体検査・能力検査予定	
馬体検査	四月十二・十三日 (旭川) 四月二十三日 (旭川) 五月八日 (旭川) 五月二十二日 (北見) 六月十二日 (帯広) 六月二十六日 (帯広) 八月上旬…三才のみ (岩見沢)
能力検査	四月十七～十九日 (旭川) 五月一日 (旭川) 五月九日 (旭川) 五月二十三日 (北見) 六月十三日 (帯広) 六月二十七日 (帯広) 八月上旬…三才のみ (岩見沢)

# 番組編成要領

## 1. 出走馬の種類

軽種及び軽半血種以外の種類

## 2. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること

(1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬

(2) 新馬 3才

古馬 10才以下（再登録馬は、6才以下の馬）

(3) 馬体重 3才 700kg } 以上の馬  
4才以上 750kg }

(4) 馬体検査，能力調教検査に合格した馬。

## 3. 出走の制限及び拒否

(1) 外国産馬は，出走できない。

(2) こ疾の程度が重く又は，外観上みにくい馬。

(3) 出走取消をした馬及び競走除外馬（除く同枠除外）は，その開催の残余期間。

(4) 尋常てい鉄を使用しない馬。

(5) 調教が充分でないへき馬及び失明馬（片眼馬を含む）。

## 4. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

(1) 1競走における出走頭数は，10頭以下とする。

(2) 普通競走において，前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は，抽選により出走馬を決定する。

(3) 前項により出走できなかった馬は，競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。

(4) 出走投票の結果1競走の頭数が5頭以下の場合には，その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし，偶発的事故又は疾病等により出走を取り消し又は，競走除外を命じた場合を除く。

## 5. 競走の区分

取得賞金額（1着～5着まで以下同じ）により編成し年令別に次のとおりとする。

3才 3才馬のみの編成とする。

4・5才 4・5才馬の混合編成とし，通算取得賞金 450万円以上の馬は，4才以上の競走に編入する。

4才以上 4才以上の混合編成とする。

## 6. 負担重量

(1) 騎手重量 騎手重量は75kgとする。

(2) ばんえい重量

(ア) 3才馬

ばんえい重量は500kgとし本年取得賞金50万円につき10kgの加増を行う。

(イ) 4・5才

3才時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

取得賞金	450万円 未満	330万円 未満	250万円 未満	170万円 未満	90万円 未満
ばんえい重量	640kg	620kg	600kg	580kg	560kg

(ウ) 4才以上

昭和51年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、4・5才馬で編入する馬は、同額賞金クラスに編入し競走において10kgを減量する。

取得賞金	1,250万 円以上	1,250万 円未満	950万円 未満	750万円 未満	600万円 未満	450万円 未満	350万円 未満	250万円 未満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	600kg

(エ) オープン馬

昭和51年以降の取得賞金 1,250万円以上の馬をオープンとする。

1,250万円以上の取得賞金に対し 500万円につき10kgの基礎加増を行う。

本年取得賞金に対し 300万円を超える額ごとに10kgを加増する。

(3) 雌馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通及び別定競走において委員長の指定する騎乗騎手は、通算勝利回数により10kg減量する。

7. 希望編入

取得賞金によらず希望で編入できるのは、オープンのみとし番組編成会議で決定する。

ただし、希望編入できるのは7月までとする。

8. 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができ。

9. 取得賞金は、特に記載のない限り前回までの合計とする。

10. 騎乗の制限

(1) 1日の騎乗回数は6回、連続騎乗は、3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

(2) 騎乗変更した騎乗騎手の翌日の騎乗は、これを認めない。ただし、委員長が特に認めた場合は、この限りでない。

11. 騎乗騎手の減量について

委員長が指定する騎乗騎手は、次のとおりとする。

(1) 数え年30才以下の騎乗騎手で、通算勝利回数20勝以下の者。

(2) 減量騎乗騎手は、出馬表に☆印で表示する。

12. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

# 昭和54年度報償費

## 1. 馬主に関するもの

- (1) 賞 金 競馬番組で示した金額
- (2) 出走手当 次に該当する馬の馬主に対し支給する
- (ア) 競走に1回以上出走したとき
- (イ) 特別報償金の受給資格のあるとき

出 走 手 当	40,000円
---------	---------

- (3) 着外手当 競走に出走し6着以下の馬の馬主に対し次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は、支給しない。

重 賞 競 走	1着賞金 300万円以上	100,000円
	" 300万円未満	40,000円
特 別 競 走		25,000円

- (4) 特別報償金 次に該当する馬の馬主に対し支給する。
- (ア) 出走投票の結果1競走の出走頭数が5頭以下のため競走が取り止めになったとき又は、制限頭数を越えたため抽選により出走できなくなったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。
- ただし、当該開催の競走に出走した馬を除く。
- (イ) 競走除外等で同枠のため除外(友引)になったとき。
- (ウ) 天災その他やむを得ない理由により開催当日に、競馬又は競走を取り止めたとき。

(ア) のとき	その競走の5着賞金ただし25,000円を限度とする(騎手賞, 厩務員賞においてもこれに準ずる)
(イ) のとき	その競走の3着賞金(騎手賞, 厩務員賞においてもこれに準ずる。)

(ウ) のとき	その競走の賞金と着外手当の合計額を出走頭数で按分した範囲の額(騎手賞, 厩務員賞においてもこれに準ずる。)
---------	---

- (5) 輸送手当競馬場毎に1回以上出走した馬(特別報償金受給資格を有した馬を含む)の馬主に対し当該競馬場毎に支給する。

輸 送 手 当	10,000円
---------	---------

## 2. 騎手に関するもの

### 騎 手 賞

競走に出走した馬の騎手に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
調 教 騎 手	24,500円	20,500円	15,500円	11,500円
騎 乗 騎 手	15,500円	11,500円	9,500円	7,500円

## 3. 厩務員に関するもの

### 厩 務 員 賞

出馬確定した馬の厩務員に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
厩 務 員 賞	13,000円	11,000円	9,000円	7,000円



## 昭和53年度種雄馬ランキング

### 6才以上

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ブル	鉄 鯉	12	39	35,099,500 <sup>円</sup>	テツワカ、ジャスマン
2	ベル	ウルバン	9	21	27,479,000	イシカリハヤテ、イダテン
3	ベル	タンブー	4	7	18,529,000	ハクリュウ、コマバ
4	ベル	アプレス	6	15	16,561,000	シンザンオー、ブラックパワー
5	ベル	丹 西	2	4	16,035,000	レイショウ、タツマキ
6	ベル	2世 ロッシーニ	3	11	15,004,000	タダヨシ、サロマシンザン
7	ベル	詠 旭	7	12	11,814,000	ナオフジ、エイキョク
8	ブル	キプロタ	7	10	11,082,000	コマリュウ、キプオーザン
9	ベル系	朗 塔	2	4	11,062,000	タイショオ、ヤマイサミ
10	ブル	ボヌール	3	9	10,737,000	キンボシ、シヒロテンリュウ

### 4・5才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ブル	鉄 鯉	26	59	47,794,000 <sup>円</sup>	ダイケツ、キタノテンリュウ
2	ベル	楓 朝	17	41	31,411,000	キヨヒメ、キョウエイ
3	ベル	2世 ロッシーニ	13	26	18,992,000	スピードビジョン、ユウホウ
4	ベル	二世 ロッシーニ	4	13	16,034,000	ハヤホマレ、フジ
5	ベル	久 都	6	19	14,239,000	スイショウ、ドウドウ
6	ベル	タンデイ	4	10	9,650,000	キョクイチ、センポイント
7	重半	カチサカエ (晏榮)	8	14	8,865,000	ライデン、ドラゴンダッシュ
8	ベル	アプレス	4	6	7,780,000	パンミハル、ドウホクチドリ
9	ベル	第二オデオン	3	6	7,419,000	カイリキ、ショウワフジ
10	中半	富 士	1	4	6,737,000	アイスリヤル

### 3才

順位	種類	馬名	登	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ベル	二世 ロッシーニ	15	25	22,390,000 <sup>円</sup>	ハヤタカラ、ブラックモナーク
2	ベルジ	ジャンデュマレイ	6	13	17,338,000	リュウタカラ、マサカツ
3	ベル	楓 朝	7	16	11,730,000	ミサワコマ、キタノフジ
4	重半	カチサカエ (晏榮)	5	13	9,130,000	トカチリュウ、アズマヒカリ
5	ベル	第三オデオン	4	15	8,119,000	リュウタロー、ソラチキリン
6	ベルジ	マルゼンストロングホース	9	13	8,080,000	タミオヒメ、マルゼンレコード
7	ベル	ゲプランタン	3	10	5,967,000	ユタカモリ、キミヒメ
8	ベル	タンデイ	3	7	5,213,000	ユリアンティ、カチオーブン
9	ベル	ヒタチオー	7	8	4,945,000	カツトン、ダイニセーコ
10	ベル系	輝 彦	1	5	4,650,000	カヤベヒメ

## 昭和53年度賞金受賞ランキング

順位	3		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	リュウタカラ	12	9,788,000 <sup>円</sup>	
2	ハヤタカラ	20	6,135,000	
3	カヤベヒメ	17	4,650,000	
4	ミサワコマ	16	4,542,000	
5	マサカツ	22	4,331,000	
6	ユリアンテイ	18	2,993,000	
7	キタノフジ	12	2,935,000	
8	リュウタロー	14	2,897,000	
9	トカチリュウ	17	2,880,000	
10	ユタカモリ	19	2,880,000	
11	タミオヒメ	13	2,812,000	
12	キミヒメ	14	2,810,000	
13	アズマヒカリ	18	2,775,000	
14	セキホク	19	2,747,000	
15	カリフォート	17	2,745,000	
16	モガミオーザ	14	2,641,000	
17	ソラチキリン	16	2,315,000	
18	ブラックモナーク	17	2,217,000	
19	エンガルボーイ	8	2,027,000	
20	リキイチ	18	2,006,000	

順位	4		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	ハヤホマレ	16	8,007,000 <sup>円</sup>	
2	カイリキ	20	5,915,000	
3	マサユキ	19	3,590,000	
4	キヨタカラ	7	3,195,000	
5	ムツコマ	20	3,189,000	
6	ヒメテツリ	8	2,435,000	
7	センポイント	17	2,109,000	
8	サカエトーコ	17	1,873,000	
9	ヤマトムサシ	20	1,827,000	
10	キタノサブロー	17	1,643,000	
11	アキホーブ	17	1,609,000	
12	ハナノリュウ	14	1,544,000	
13	ヤマトエイユウ	10	1,525,000	
14	イチオクオー	16	1,520,000	
15	ドラゴンダッシュ	22	1,403,000	
16	テツイサミ	22	1,395,000	
17	カヤチカラ	17	1,310,000	
18	ロイヤルセーコ	15	1,297,000	
19	アグネスラム	19	1,291,000	
20	ヤマサラッキー	17	1,273,000	

順位	5		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	スイショウ	18	9,615,000 <sup>円</sup>	
2	キヨヒメ	24	8,427,000	
3	ダイケツ	22	8,315,000	
4	アイスリヤル	20	6,737,000	
5	キタノテンリュウ	18	5,895,000	
6	キョウエイ	18	5,613,000	
7	キョクイチ	24	5,578,000	
8	カイザンオー	20	5,268,000	
9	タカラオートリ	22	4,946,000	
10	バンミハル	21	4,502,000	
11	マサヒカリ	18	3,997,000	
12	フジ	19	3,810,000	
13	ヒロホマレ	18	3,467,000	
14	ライデン	21	3,128,000	
15	ミスアカイサワ	21	2,851,000	
16	スピードビジョン	18	2,560,000	
17	タカユキ	19	2,544,000	
18	ユウコーマル	16	2,655,000	
19	ユウホウ	18	2,307,000	
20	イデフジ	16	2,282,000	

順位	6		オ以上	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	レイショウ	22	13,135,000 <sup>円</sup>	
2	テツワカ	26	11,197,000	
3	タイショオ	22	9,890,000	
4	ハクリュウ	15	9,000,000	
5	タダヨシ	25	8,878,000	
6	バイセン	17	7,680,000	
7	コマバ	20	7,000,000	
8	シンザンオー	27	6,970,000	
9	インカリハヤテ	22	6,815,000	
10	ハヤツネ	29	6,772,000	
11	キンボシ	22	6,593,000	
12	ダイニメイホウザン	20	5,388,000	
13	ジャスマン	21	5,066,000	
14	シンナイ	20	5,014,000	
15	タカラテル	18	4,783,000	
16	イダテン	21	4,736,000	
17	ミスオサシマ	24	4,434,000	
18	ムサシ	29	4,417,000	
19	カツエイ	23	4,410,000	
20	ソウシン	17	4,320,000	

## 昭和53年度市営競馬成績

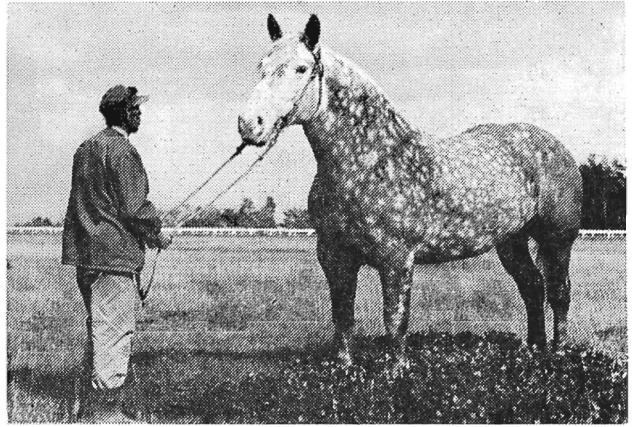
主催者	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
北見市	1	1,199,842,700 <sup>円</sup>	199,974,783 <sup>円</sup>	34,808,000 <sup>円</sup>	31,447 <sup>人</sup>	5,241 <sup>人</sup>
	2	980,727,200	163,453,533	36,138,000	20,657	3,443
	3	1,116,132,700	186,022,117	40,109,000	24,547	4,091
	4	1,018,839,200	169,806,533	48,184,000	18,661	3,110
	5	1,657,363,700	276,227,283	54,150,000	28,272	4,712
	計	5,972,905,500	199,096,850	213,389,000	123,584	4,119
旭川市	1	1,128,174,500	188,029,083	44,042,000	25,428	4,238
	2	1,552,097,000	258,682,833	57,336,000	36,095	6,016
	3	1,440,226,200	240,037,700	65,911,000	28,837	4,806
	4	1,838,724,200	306,454,033	77,919,000	33,518	5,586
	計	5,959,221,900	248,300,913	245,208,000	123,878	5,162
帯広市	1	963,660,200	160,610,033	41,971,000	24,013	4,002
	2	1,304,041,900	217,340,317	49,457,000	31,012	5,169
	3	1,246,985,100	207,830,850	53,827,000	26,776	4,463
	4	1,394,357,300	232,392,883	68,799,000	29,879	4,980
	計	4,909,044,500	204,543,521	214,054,000	111,680	4,653
岩見沢市	1	1,162,240,200	193,706,700	42,446,000	28,046	4,674
	2	1,339,733,800	223,288,967	45,581,000	28,775	4,796
	3	1,698,150,400	283,025,067	52,991,000	38,671	6,445
	4	1,489,159,200	248,193,200	59,071,000	30,668	5,111
	計	5,689,283,600	237,053,483	200,089,000	126,160	5,257
合計	22,530,455,500	220,886,819	872,740,000	485,302	4,758	

## 昭和53年度道営競馬成績

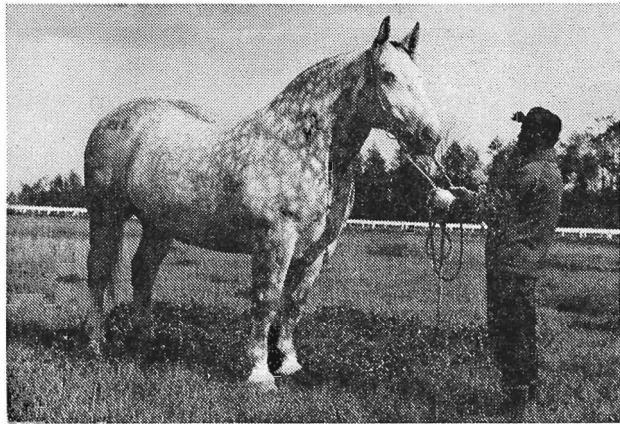
競馬場	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
岩見沢	1	2,035,602,400 <sup>円</sup>	339,267,067 <sup>円</sup>	72,105,000 <sup>円</sup>	55,755 <sup>人</sup>	9,293 <sup>人</sup>
	2	1,893,582,000	315,597,000	76,038,000	39,745	6,624
	3	1,709,942,200	284,990,367	78,109,000	34,429	5,738
	4	1,654,158,000	275,693,000	81,206,000	31,649	5,275
	5	1,920,212,200	320,035,367	80,807,000	35,995	5,999
	計	9,213,496,800	307,116,560	388,265,000	197,573	6,586
旭川	1	959,459,400	159,909,000	73,739,000	20,670	3,445
	2	1,046,085,200	174,347,533	86,697,000	22,391	3,732
	3	815,409,200	135,901,533	85,595,000	17,995	2,999
	4	1,095,199,200	182,533,200	81,890,000	22,419	3,737
	計	3,916,153,000	163,173,042	327,921,000	83,475	3,478
帯広	1	670,527,600	111,754,600	78,774,000	16,574	2,762
	2	1,072,095,800	178,682,633	79,705,000	27,222	4,537
	3	962,312,000	160,385,333	83,410,000	21,370	3,562
	計	2,704,935,400	150,274,189	241,889,000	65,166	3,620
札幌	1	2,908,368,400	484,728,067	96,634,000	70,733	11,789
	2	3,296,378,400	549,396,400	103,379,000	71,945	11,991
	3	2,754,888,600	459,148,100	90,117,000	52,712	8,785
	4	4,022,392,800	670,398,800	117,667,000	81,171	13,529
	計	12,982,028,200	540,917,842	407,797,000	276,561	11,523
合計	28,816,613,400	300,173,056	1,365,872,000	622,775	6,487	

53年度 引 退 馬 (表彰馬)

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	369,500
47	426,000
48	582,000
49	827,000
50	1,181,000
51	1,088,000
52	646,000
53	947,000
計	6,066,500



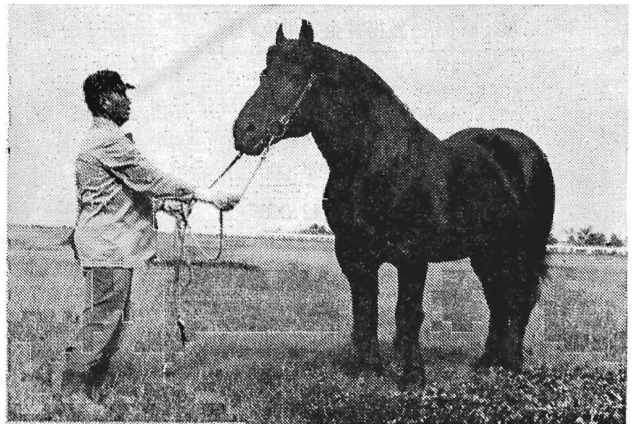
イ サ ミ ヒ メ 号



キ ン カ リ ユ ウ 号

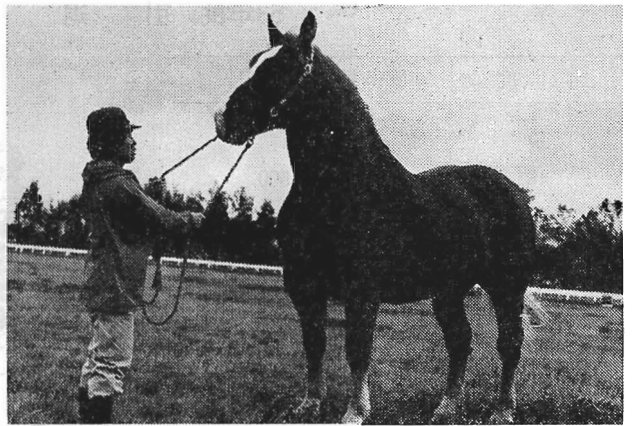
年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	594,000
47	196,000
48	225,000
49	655,000
50	1,426,000
51	934,000
52	1,211,000
53	1,128,000
計	6,369,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	—
47	271,000
48	380,000
49	814,000
50	809,000
51	1,301,000
52	872,000
53	529,000
計	4,976,000

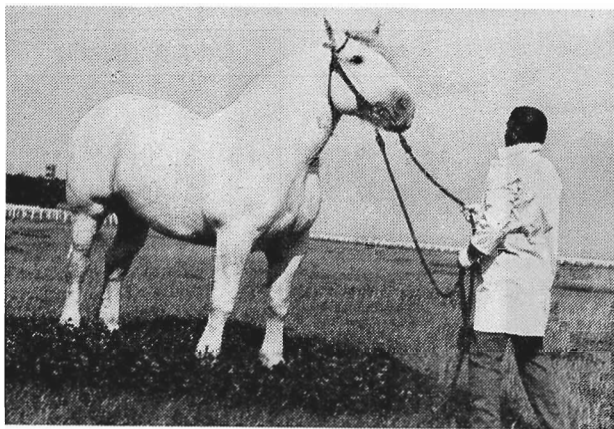


ク ロ エ ル ム 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	—
47	149,000
48	298,000
49	405,000
50	1,436,000
51	2,177,000
52	2,810,000
53	2,130,000
計	9,413,000



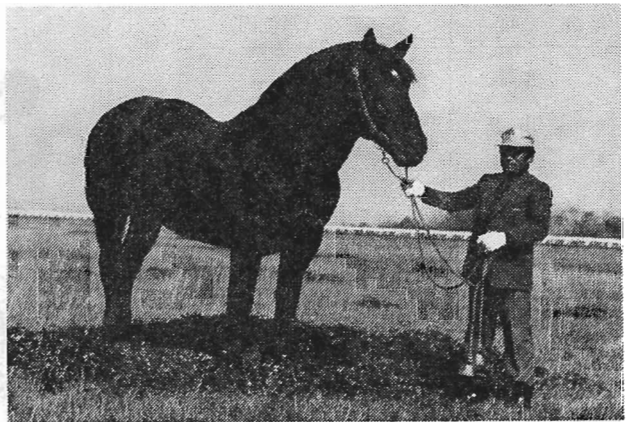
コ マ ハ ナ 号



コ マ バ 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	504,000
47	935,000
48	493,000
49	2,395,000
50	4,117,000
51	3,095,000
52	7,150,000
53	7,000,000
計	22,689,000

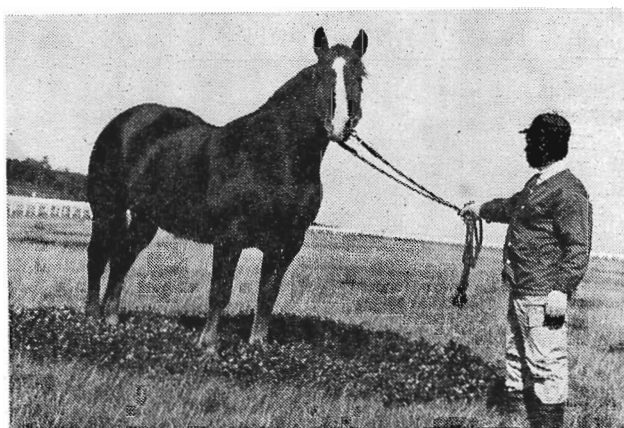
年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	1,919,000
47	798,000
48	1,042,000
49	3,237,000
50	2,750,000
51	2,555,000
52	2,482,000
53	3,855,000
計	18,638,000



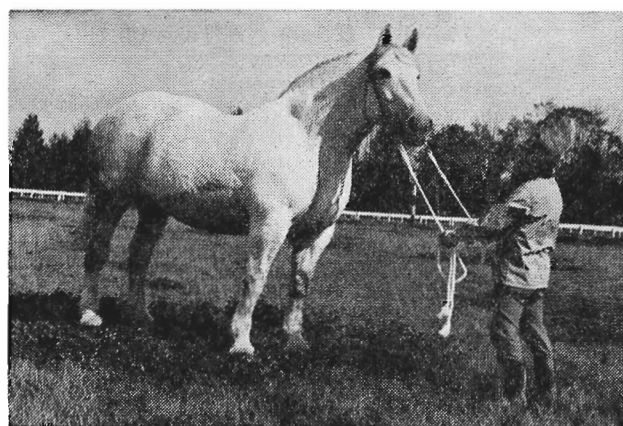
シ ゲ ノ ハ ラ 号



年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	233,000
47	382,000
48	296,000
49	691,000
50	1,426,000
51	2,333,000
52	550,000
53	2,008,000
計	7,919,000



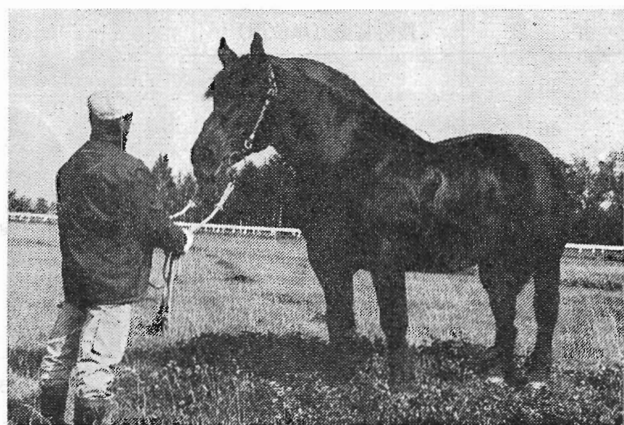
ス イ ホ ウ 号



テ ン タ ン 号

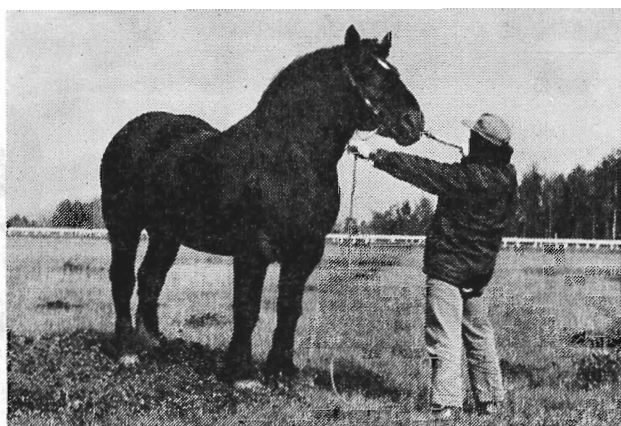
年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	—
47	905,000
48	548,000
49	1,288,000
50	134,000
51	2,665,000
52	1,633,000
53	1,443,000
計	8,616,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	—
47	—
48	2,083,000
49	3,139,000
50	7,064,000
51	1,120,000
52	2,265,000
53	2,285,000
計	17,956,000

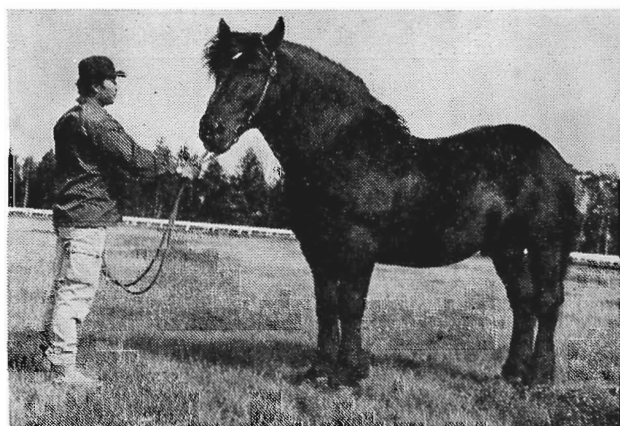


バ ラ ト 号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	321,000
47	520,000
48	346,000
49	531,000
50	1,253,000
51	1,066,000
52	875,000
53	974,000
計	5,886,000



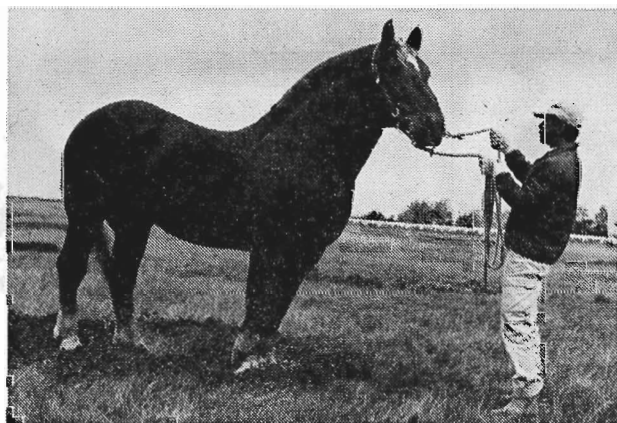
フランテンリュウ号



ホームラン号

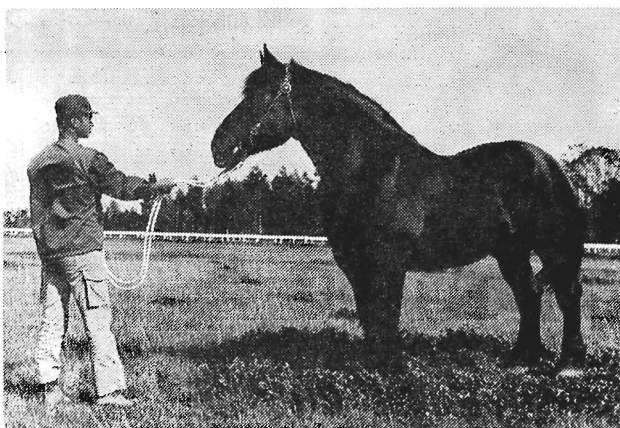
年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	1,018,000
47	232,000
48	287,000
49	677,000
50	2,871,000
51	2,780,000
52	2,698,000
53	2,599,000
計	13,162,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	315,000
47	207,000
48	273,000
49	362,000
50	470,000
51	894,000
52	438,000
53	80,000
計	3,039,000

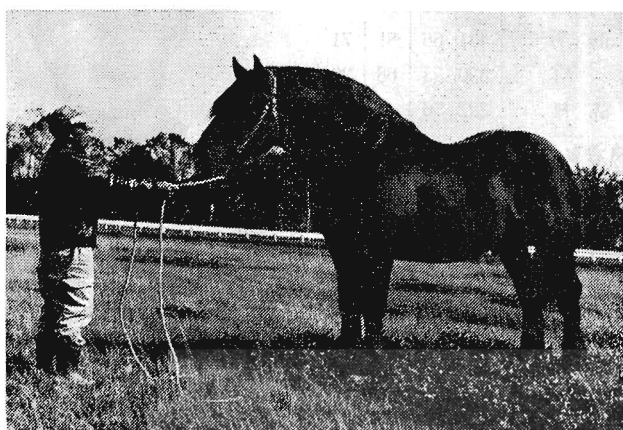


リンセイ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	435,000
47	599,000
48	410,000
49	1,322,000
50	2,685,000
51	2,010,000
52	1,340,000
53	1,232,000
計	10,033,000

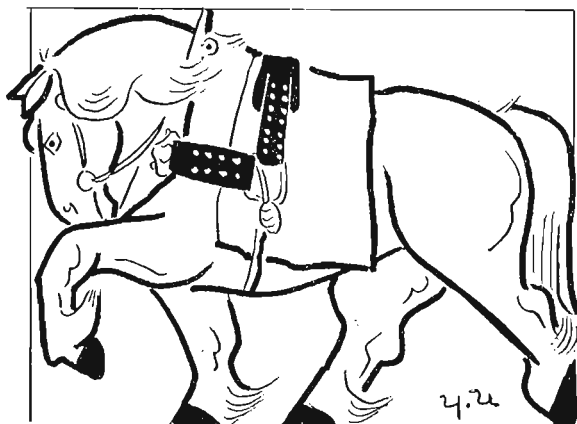


レンフクゴー号



ワカソラチ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	137,500
47	379,000
48	594,000
49	2,162,000
50	1,899,000
51	1,645,000
52	2,293,000
53	2,370,000
計	11,479,500



ワカハヤテ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
45	—
46	—
47	91,000
48	251,000
49	703,000
50	1,805,000
51	1,914,000
52	852,000
53	0
計	5,616,000

昭和53年度リーディングトレーナー



本 沢 政 一

順 位	調 教 師 名	勝 率
1	本 沢 政 一	0.203
2	定 塚 俊 男	0.171
3	野々宮 重 樹	0.164
4	渕 上 昭 一	0.163
5	坂 本 和 昭	0.162
5	山 本 俊 一	0.162

(5位は同率のため2名)



定 塚 俊 男

昭和53年度リーディングジョッキー

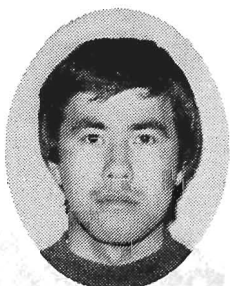


山 田 勇 作

順位	騎 手 名	得点	1着	2着	3着
1	山 田 勇 作	478	97	64	59
2	木 村 卓 司	453	78	78	63
3	工 藤 正 男	431	66	81	71
4	久 田 守	330	53	66	39
5	尾ヶ瀬 富 雄	322	56	48	58

※得点は1着、2着、3着をそれぞれ3点、2点、1点として計算する。

※年度中に騎乗停止の処分を受けた騎手は除く。



木 村 卓 司

農 林 水 産 大 臣 賞 典

本年度最強馬決定戦ともいべきレースが十一月十二日、北見競馬場で行われた。天候晴、馬場水分一・三〇%。負担重量は全馬一、〇〇〇キロ

主催者側は、ファンに絶大な人気を博しているこの競走の日は、日没の早い時期でもあり、一日九レースとし、最終レースにこの競走をもってきた。その結果、一億円を突破する売り上げを記録。ちなみに、前年度帯広で行われた同競走の売り上げは九千八百万円。北見競馬場における、一レースの記録は五千二百万円であった。

レースは、本年度喘鳴症で一息調子でなかったハクリュウが往年の実力をみごとに発揮し、二着馬を四十五秒もちぎる大衆勝を演じた。二着に二番人気テツワカが入り、一番人気のレイシヨウは五着に敗れた。結果は次のとおり。



副賞の米俵 1着に3俵、2着に2俵、3着に1俵与えられた

- 一着 ハクリュウ 大友
  - 二着 テツワカ 片平
  - 三着 タイシヨウ 木村
  - 四着 コマバ 金山
  - 五着 レイシヨウ 鶴沼
  - 六着 ハヤツネ 山田
  - 七着 ナカフムサン 尾ヶ瀬
- シンザンオーは競走中止

昭和54年度市営競馬日程表(予定)

■ 旭川    ▨ 北見    ▩ 帯広    □ 岩見沢

4月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	㉑		
5月	1	2	③	4	⑤	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	31	
6月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30		
7月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	30	31	
8月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑰	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31	
9月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	⑳	㉑	24	25	26	27	28	29	⑳	
10月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	⑩	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31
11月	1	2	③	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	⑳	24	⑳	26	27	28	29	30		

昭和54年度道営競馬日程表(予定)

□ 岩見沢    ■ 旭川    ▩ 帯広    ▨ 札幌

4月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	㉑		
5月	1	2	③	4	⑤	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	31	
6月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30		
7月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	⑳	30	31	
8月	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑰	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31	
9月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	⑳	㉑	24	25	26	27	28	29	⑳	
10月	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	⑩	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31
11月	1	2	③	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	⑳	24	⑳	26	27	28	29	30		



昭和54年 4 月

札幌市北区北10条西4丁目畜産会館2階 (TEL) 代表742-5345